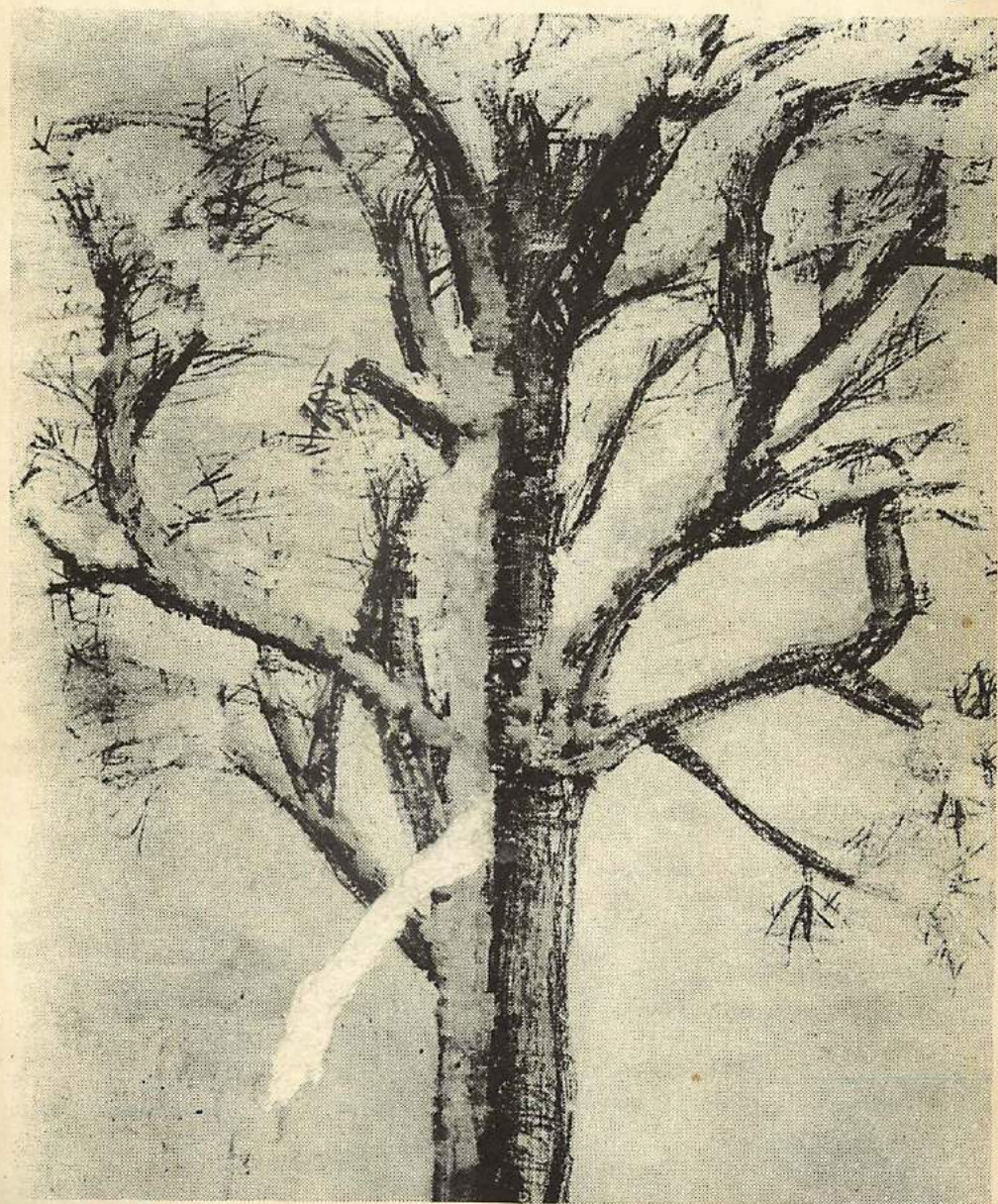


五稜

1967 6



第 六 号

五 稜



校 歌

一、ひんがしに

たたなわる

若人の

みなかみ

水上に

あたらしき

新しい

大いなる

古城いだきて

五稜が丘は

息吹きに満ちぬ

ふるきをたずね

ひかりた

光に立ちて

力伸はさん

二、さくら花

友かきの

うち鳴らす

ひとすじに

築きゆく

ああ とわに

しるしと仰ぎ

堅く結びて

自主の鐘の音

まことを窮め

理想のすがた

われら栄えあれ

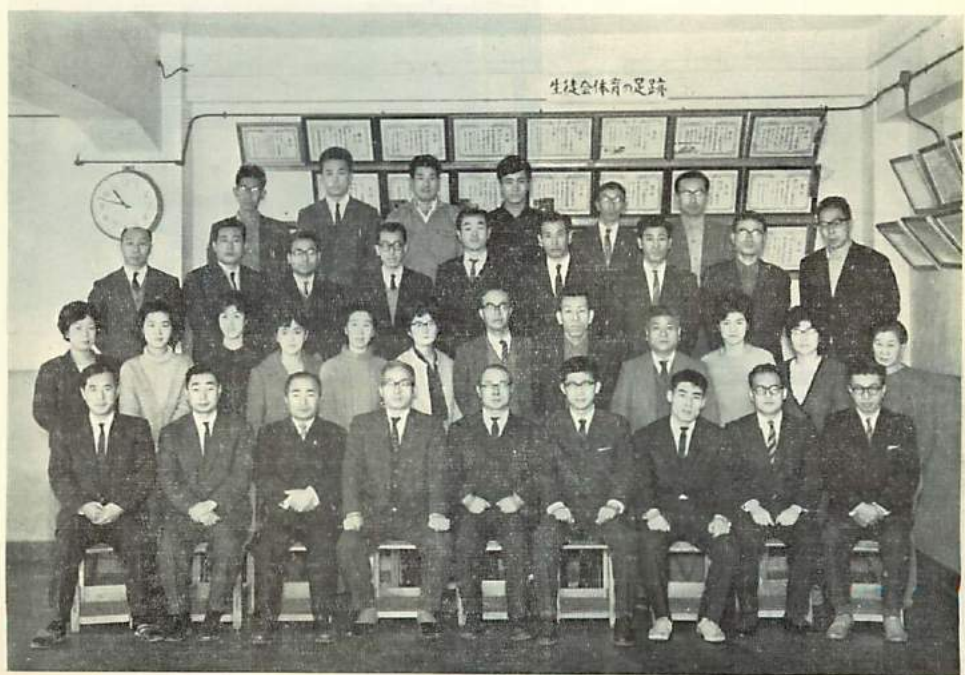
五 稜

目 次

表 紙	洪 川 博 康	
自愛・自識・自制	校 長	1
3年間をふりかえつて	生 徒 会 長	2
学 級 プロフィール	3 A ~ 3 G	3
短 歌		7
論 説		8
俳 句		11
部 報		
専門部とクラブの歩み	専門部・文化部・体育部	12
短 歌		23
生 徒 作 文	1 年・2 年・3 年	24
詩		41
職員ずい筆		46
	坂 牧 達 夫	46
	主 藤 節 子	47
	竹 内 巖太郎	48
生徒会座談会		52
先人のことば・みどり学園卒業生名簿		58
41年度受賞者一覧		59
卒業生のことば付住所録		61
職 員 一 覧		73
編 集 後 記		74



校 長



全 職 員

誠実 協調 真理 探求
 第五中学校
 校舎正門



校舎正門



学習風景



学習風景





新 任 式



学
習
風
景



楽
しい
昼
食





朝会風景



理科の実験

図書館風景



文化祭音楽弁論発表会



文化祭英語劇

運動会

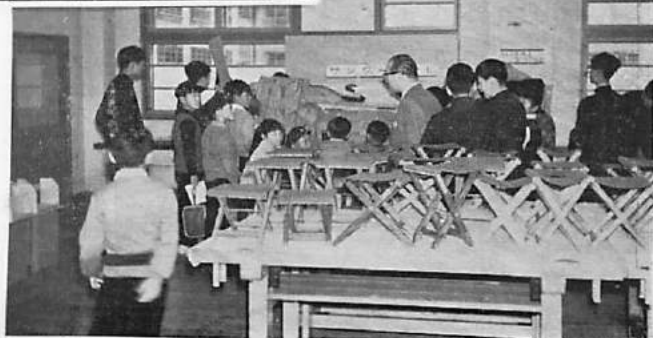


文化祭音楽弁論発表会



音楽会

文化祭工作





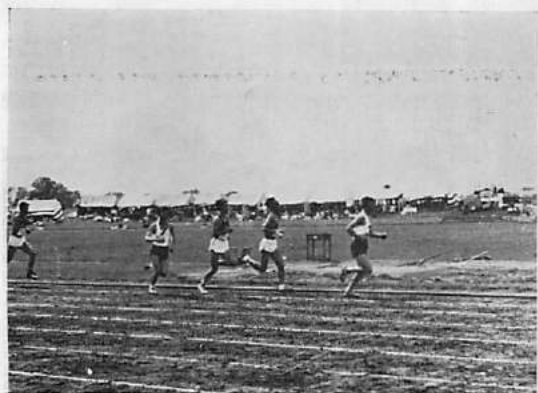
ある日の先生達



植樹風景



遠
足



ス
ポ
ー
ツ





生徒会役員



修学旅行



車
中
で

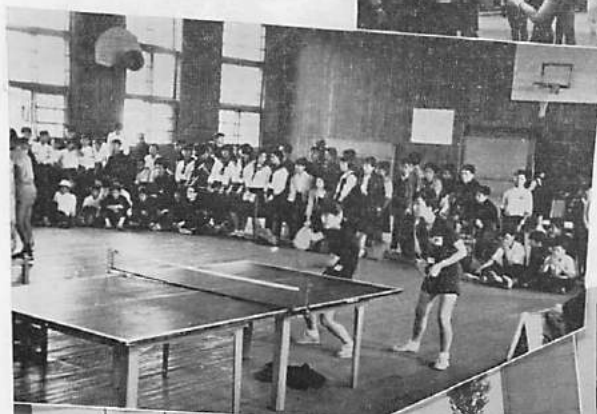


ス ポ ー ツ

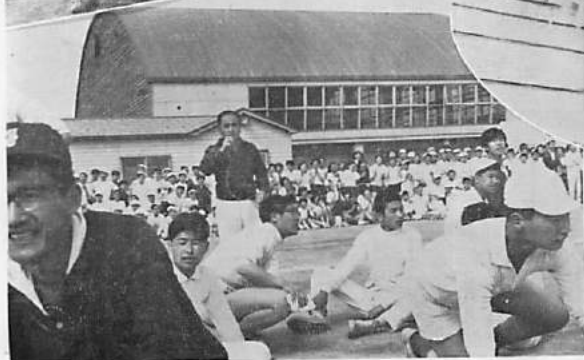
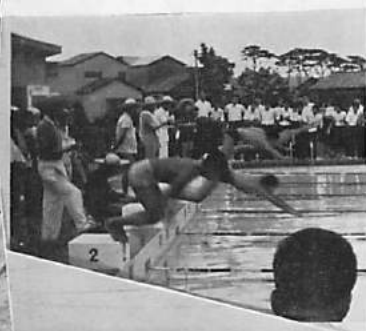


陸 上

卓 球



運 動 会 とびこみ



水 泳

運 動 会

自愛・自識・自制

校長 藤 川 光 夫

イギリスのある詩人が「自愛・自識・自制、この三者は、人生を導いてくれるもっとも大きな力である」ということを書き残しています。

これは自分を大切にし、自分の才能や個性を知り、自分を自分でコントロールできる力をもつことは、われわれにとっても必要なことであり、自分を導いてくれるもっとも大きな力となるものだと考えているのです。

本校は「誠実・協調・真理探求」を校訓として本校に学び生活をともにするものすべての生徒がこのころと能力をもつようにと願っているのですがこれも「自愛・自識・自制」をもつ人間育成の道程であるのです。

修学旅行・遠足・運動会・市内中学校として最初のプールの設置と水泳教室、中体連各種競技への参加、道徳の研究会、文化祭、生徒会の諸活動、日常の学習活動に八五五名の諸君がそれぞれに努力して、本年度りっぱな成果をあげたのも、ひとりひとりの生徒諸君が、校訓の精神を体して、自分を大切にし、自分の才能や素質などを考えて、はげしい練習や学習によく励み、苦しいこと、つらいことにうち勝つところをもって努力したからにはかならないのです。

諸君の先輩は、本校のよき校風と伝統の基礎をつくってゆかれたのです。それをいっそう輝しいものにするために、そしてこれから続く後輩のために、現在のわれわれは、何を、どうするかは、いま本校に学ぶひとりひとりの諸君の考え方や行ないにあるのです。校舎内外の掃除、特別教室の整備、体育館の使用、図書の利用等、すべていまの生徒の仕方、取り扱い方、使い方がこれからの在り方となっていくのです。

過去を受けついだのが現在であり、そしてその現在は未来にもつながっていくものです。この現在が諸君にとって、また学校にとっても一番大事なのです。「鉄はあついうちに打て」ということがあります。人間にとっても鍛えるべきときに鍛えなければその持つ真価を十分発揮することができないのです。人間にとって鍛えるべきときというのは、中学生の時代です。この時代にこころと身体をどう鍛えるかによってその将来が方向づけられるのです。

本校の生徒諸君は「考える人間」として、自らが自らを鍛えて、ひとりひとりがよりよく成長していくことによって、よき校風や伝統がつくられていくのです。「まじめに正しいことを求めて止まぬ」ころと能力を養って「自愛・自識・自制」をもつ生徒として育っていくことを念願し、期待しています。

三年間をふり返って

生徒会長 佐々木 敏彦

三年間歩き続けたこの道も真白な雪で、踏みかためられ、毎朝、登校のたびに仰ぎ見る学舎を後にする日も近づき、入学してから三年間という月日が流れ去ろうとしています。と、いろいろなことが、思い出されます。希望に胸をふくらませて本校の門を、くぐったこと。真新しい校舎や教室を見て、一体、中学校とはどういうものだろうかと不安になったこと。グラウンドの草むしりをしながら、特別校舎ができ、日一日と校舎全体が、でき上がっていくのを見て、とてもうれしかったこと。今では、夏にプールもでき、入学当時の不便さというものも、なくなっています。

中学校という所は、体力の基礎造りであり、学問の基礎造りの場でもあります。一生懸命勉強し、運動もやってきました。血のにじむようなクラブの猛練習によって、精神力がつき、団体プレーをすることによって、協調性というものの大切なことが、わかりました。そしてこのようなことが、中学校生活三年間を通して、なによりの、大きな修得であり、尽きない思い出の一つでもあります。

三年生になって、私は、会長に任命されました。前半は、中体連やその他の行事で、少々、おろそかになりましたが、後半は、一生懸命頑張ってきました。もう、なにも心残りはありません。

ここで二年生にバトンを渡すことになりますが、彼等も、誠実・協調・真理探求という校訓のもとに、私たち以上に、立派にしようと、力を尽くしてくれるでしょう。

私たちも、第四回卒業生として、大きな希望をもち、そのために、この三年間の経験をいかして、精いっぱい努力していきたいと思います。

学級プロフィール



明朗快活な3A

三年A組

わが三年A組はふだんはばらばらでまとまりがないが、ある行事などがあるとみんな一致団結してハッスルする。

今年の秋の競技会ではいままで賞状をもらったことがない迷記録をもった男子がサッカーで体育委員を中心に三位をとり、女子はバレーボール大会で二位であった。

三年A組は朝ねぼろの連中ばかりそろっていて、八時十五分には五・六人で、ベルのなる三十分ぎりぎりにみんないっせいに教室にかけこんでくるので、厚生委員のところ、ストープの回りは急ににぎやかになり、ちよつとしたラッシュでもある。

クラスの成績は最近はみんないっしょうけんめいにやっているの
で少しずつよくなってきた。

クラスのメンバーは多種多様で陸上競技のとくいな人、いつも友人と、はとの話をしている愛きゅう家、美術のとくいの人、放送局の局員で豆電氣技術者、読書の好きな人、写真をとるのが上手な人休み時間いつもくしと鏡でとこやの練習をしている人など、あげればいろいろながいる。

あと残った月日をクラス全員が自分の希望をはたし、五稜中学を卒業していきたい。 THE END

活発なB組

三年B組

わがB組は運動は上の下ぐらいだが（とくに男子が強い。）勉強のほうはあまり……………。

しかしB組にもまともな人間もチラホラいる。あとはみんな陽気
で、ちよつといかれた若者はかりである。（明朗で活発です。）

だがB組には自民党ばりの派閥（？）がある。毎日のように、教室のあちこちで派閥の実力者（？）を中心に何やら相談している。（女生徒に多いようです。）このようなことから、B組はまとまりがないように思われるが、けっこうまとまっている。それぞれの委員もよく活躍している。（中には例外もあるがね。）いや、委員ばかりでなく全員が仕事熱心である。だから、うすぎたなかった教室もきれいになり教室が明るくなった。（あまり良く書きすぎたかな？）

しかし、B組にはこのような、良いことばかりでないだろう？
Bは前にも言ったように明朗で活発な人ばかりなので（活発すぎる。）勉強時間はけつて静かではないだろう。まして自習時間ともなればそれがクライマックスに達する。（いや、静かな時もあるよ。）それが休み時間ともなればラッシュアワーです。

このようにわがB組は、よい点、悪い点はあるが（プラス・マイ

ナス・〇といったいがマイナス3くらいかな。)優しい先生(もちろん永谷先生です。)そして愉快な友人でしっかり結ばれて、あとわずかの中学校生活を全員で素晴らしい中学校生活にしようとする努力しております。

笑いのたえないクラス

三年 C 組

私達のクラスはみんな明るくつきあいやすい人達ばかりである。男女の区別なくふざけあったり、時には小さなけんかをしたり。でもすぐに仲直りをして、明るいのかうるさいのかわからなくなる。でも、それがC組の良いところなのだ。

ある日の国語の時間のこと、一人が教科書を読んでいた。「……夕日がさしてくる。そこへ……」すると陰から「夕陽が泣いている。」という声が出た。おかげでみんな大笑いである。

又、教科書を読んでいる時つかかると「ぼかせ。」「先生に聞け。」「あつ、あいつばかりしたな。」と四方から声がかかる。その他、数学の時間に「夢は夜開く。」と言ってみたり、さまざまである。これらの事はあまり良い行ないとは言えないがクラスが一つに溶けあっている現われといえるだろう。例えばあだ名にしてもデメ・オカメ・デツベ・ハツカケ(八角形ではない。歯欠け)・円・朝鮮などおかしなものばかりあるが、だれも文句を言わない。というよりもあだ名で呼ばれても平気な顔で返事をしている。それもあるあだ名のついている人がほとんどなのである。

ところで一日のうちで静かな時といえば五・六時目とH・Rの時である。昼食後は空腹も満たされ、午前中の疲れも出て、居眠りの時間となる。六時目もひき続きおやすみの時間。そしてしふしふH・Rテストを受けてH・Rとなる。それではH・Rをのぞいてみよう。(ちょっとだけね)聞こえるのは議長「何かありませんか。」という声だけ。みんなは――議長の顔をジッと見つめる者、窓の外をながめている者、今晚のおかずを想像している者と多種多様ではあるが、だれ一人として意見を出す者はない。

一見お通夜のようなものである。そのH・Rが終わるととたんにハッスルして元気はつらつとして帰るのだ。だが学校がいやなのではない。みんな学校が楽しいのである。進学・就職問題はどこへやら、担任や親の心配をよそにのんびり暮らしている。というわけで、このC組の人がらがおわかりいただけたらう。

あと残りの少ない中学校生活ではあるが、今まで以上に明るく楽しいクラスにしていきたいものである。

スクラムをくんで

三年 D 組

「何か意見ありませんか？」と議長は必死に叫ぶ。だがみんなの関係ないような顔・顔・顔……沈黙の時間が続く。

突然だれかがサツと手を上げる。議長、ほっとして指名する。すると大声で「席かえ！」と叫ぶ。そうしたらみんな歓声をあげ、教室中さわがしくなるのだ。これは今に始まったことではない。席か

えを行なう権利を持っているのは我らの話せる？斎藤先生であるのだ。だから先生のきげんのよさそうな時をねらい「先生、席かえ、」とみんなで頼む。先生は知らん顔。先生と生徒との交渉はまとまらない。

また、中に週行事に「明日席かえ」と書いたりするいたずら坊ずもいる。先生となごやかに話し合いをすることはまずない。いつも先生にうまくごまかされてしまう。そのうちに時間がたち、話し合いは終わってしまう。また、休み時間ともなると男子はただちにストーブのまわりに駆け寄る。

女子は女子でおしゃべりに花をさかせている。時がたつにつれ男女とも熱がはいり、ベルが鳴っても聞こえないのかいっこうにすわろうとしない。そこへ先生登場、すると、みんなはヘイズにも負けないくらいのスピードでサツと席につき、すまし顔をしている。時々先生に見つかりゲンコツを頂だいする。こんな生活ぶりであるが、この席につく速さ、運動神経のおかげで、D組の、スポーツ面での活やくぶりはみなさん承知の通りすばらしいものだ。

しかしこの好成績を今考えなおしてみると、決してずば抜けて上手でもない。でもみんな一致団結して練習にはげまし合い、協力し合った。D組全員がスクラム組んで突進。

こうしてできた汗の結晶を私たちは忘れることができないだろう。このような成績をもたらしたこの「協力精神」を決して忘れずに、これからの我々の将来においていろいろな方面に役だてよう。

団結に満ちた天国

三年 E 組

「何か意見ありませんか、何君ー、何さん、何君ー、どうですか」

意見ありませんか。「議長の声とストーブの燃える音のほか、せき一つ聞こえない静かな教室。時たま聞こえてくる、恩師阿部先生の頭にきたような怒鳴り声。我が組の学級活動の時間は、他の組と同様、静寂のかぎりだ。

さて、休み時間になると、鎖を解かれた飼犬の如く、あらん限りのエネルギーを発散させて騒ぐ者、夜の家庭を思わせるように、ストーブの回りで、話に花を咲かせている者と、さまざま。いずれにせよ、授業時間の緊張から解放された喜びが、彼らの顔にうかがわれ、一日中で一番なごやかな時である。

「人間は食べる事と、話す事を一緒に行なう事は原則としてできない。」とだれかがいったが、昼食時が始まって5、10分位までは学活の次に静かな時である。

ときおり、語をまちがった読み方をした放送などに先生を中心に笑いこけるのもこの時間である。

さて五時間目ともなると、さすが勉強家ぞろいの我が組も、そろそろお眠りの時刻となる。自分にも経験があるが、冬の太陽の弱く細く柔らかく、ほのかに暖かい光を受けて、先生の授業の話をよき子守歌に聞き、うとうとする時、つくづく「幸せだなあ」と思う。そうこうしているうちに一日も終わり、帰りのH・Rも例によって簡単明りょうに終わり、放課。と、こういうところが我が組の一日であるが、これのどこに我が組の強い団結があるのか、ふしぎに思う。男子の団結力は何よりも運動会の時に表われた。

あの汗とはこりの中で、又、女子がどうもさえないのを、みごとカバーして二度の総合優勝を勝ち得た事、あの時のみんなの喜び、七福神をも圧倒する、あのみんなの笑顔。それと、あれほど能力が

無いと思われていた女子が最後の機会にと、毎日、はげしい練習の結果、ついに2・3年この方初めて賞状をかち得た、この団結のみでかち取ったこの賞状が、一位でなくても、それは問題外である、我々はよりよいものを得たのだから。

この団結を、今度は受験、就職の方面に向けるよう、努力している。髪の毛はうすくとも、体は小さくとも、教養と理解に満ちた、中年の恩師阿部光房先生と共に、この築こうとする団結を、より堅固にして行きたい。

パラダイス 3 F

三年 F 組

十人十色の四十三人から構成されている我が三年F組のすべてを、与えられたこのわずかな紙数に書きつくす事はとても困難な事である。そこで、我々は、我々のパラダイスである、この3Fを一口にこう書き表わしたい。

「三年F組！こここそ、若者の大きな夢、無限のエネルギーが燃えている所だ。これが青春だ！」

ある日の我がクラスをちょっと公開しよう。ージーンジーン、始業ベル、ー

しかし、ストーブのまわりでは、まだ議論(?)の真最中、また、教室の後の余地の3F ボクシングジムではまだトレーニング(?)が続けられている。二、三分後、*「来たぞ」*という声でドタドタドタ……。そして授業時間、あまり活発とは言えない。そうかと

言って*「借りて来た猫」*ほどではなく、各自マイペースで励んでいるのである。(真実かしら?)

いよいよ、*「ささやかで最大の幸福」*をしみじみと感じる昼食時。女子に家庭科で食事作法をどのように習っているのか伺いたいものである。おかずの取り変えっくに騒いでいる者、パンを投げ合っている者、一本の牛乳を数人で飲んでいいる者……。食事作法に反するとは言え、何となくやかな楽しい時間であろう。(これだから我々は3Fが好きなんだ……?)

このように3Fは決して模範的なクラスとは言えない。しかし放課後、人生に対するさまざまな悩みを語りあったあの時、真赤な夕日に照り映え、汗と血と涙で勝利を得たサツカー、友のあやまちに共に泣き悔いたあの日、初冬の寒さに震えながら、友をそして自己を励まし学んだ深夜……。そこに青春の灯は燃えていたのだ！

一日が、五稜中学校三年F組の一員としての一日が、またも過ぎ去ろうとしている。

友よ！三年F組四十三人の仲間たちよ！進み行こうではないか。永遠の友情を胸に、明日に、未来に向かって進み行こうではないか！

悪童時代 G 組。

三年 G 組

ジーン

8時30分の鐘がなり、ますますうるさくなったG組に、我らの担任桑川先生が、ギツとにらみつけながらお入りになる。とたんにみんなせつせと内職を始める。

そして先生の熱弁。

いつもの朝のひとつまである。

G組は口の運動神経があまり発達しすぎているため、どの先生方にもなげかれるのだが、桑川先生の、手上げ足上げの熱弁にはどうも顔まけだ。私たちは我らの先生を、名づけて「演技派」といつている。

私たちのクラスの数人の男生徒も、この一派に属している……そう、男生徒といえ、我がクラスの彼らは実に参考になる。先生も、女生徒に「将来のためにこういう例をよく見ておきなさい。」とおっしゃるくらいだ。それがどういふふうに参加になるかは、みなさんの適切なご判断におまかせしよう。

一方、女子もよくさわぎ、よくおしゃべりをし、ケンカのようなものもしょっちゅうする。だが、ケンカしっぱなしでないのがとりえだ。まず後しまつに「充分な話し合い」。いつも円満解決だ。だからみんな底ぬけに明るい。

男女の仲はもちろんガツチリ。

ふだんは両方ともあまり関係ない顔をしているのだが、いざ／＼となるとガツチリ団結する。2年の時のバレーボール総合優勝や3年の文化祭の優勝はその表われであるとはこりに思っている。まだ少しみだれぎみの我がクラス。きょうもまた8時30分の鐘になると、あっちで笑い声が、こっちで追いかけて、向こうではガヤガヤとおしゃべり。

でも前よりはまとまってきた感じ。

残り少ない日々をみんな自分なりに黙々と歩き続けている。

……目的に向かって……

三年 河村 真智子

短歌

庭先のふるえる子ねこみおろして

小さき影を写すねむの木

ベトナムの平和を願うおりづるを

見知らぬ友に向かいとばし

道

私の歩んだ道は美しい道だった

私の歩んだ道は花の咲く緑の道だった

でもそれはろうそくの炎のように消えた

私の歩んだ道に風が吹いた

私の歩んだ道は嵐の道だった

それはいつまでも私の心に残っていた

かぎりなくつづく人生の道

悲しだけが残されていく

その道は清い喜びの光がさすまでの

夜明けとなっていく

論 説

「友情は空気なり」

三年 布施 ちよ子

「友情は空気なり」皆さんはこの言葉の意味がわかりますか。人間は空気なしでは、生きて行く事が出来ません。それと同様に人間は、友情なしで生きて行く事が出来るでしょうか。これもやはり同じだと思います。だから友情は空気なのです。

皆さんの中に「私は友達なんかほしくない。孤独を愛するのだ」と言う人はいませんか。おそらくいないでしょう。人間が生きていくために空気が必要のように、私達が、のびのびと成長するためには、友情が必要なのです。そこで、この友情と言う事を、中学生生活に結びつけて考えてみたいと思います。

秋に行なわれた、学級対抗バレーボールの試合の時の事です。我が三年D組は、選手選考の話で、もちきりでした。職員室では「今年はこの組が優勝するか」その話で持ちきりだったそうです。しかし、残念ながら三Dという名前だけは、一度も出て来なかったそうです。このように期待される事のないD組の練習が始まりました。朝六時に始まり、放課後六時まで、選手を中心とし、選手をはげました。共々練習をした人、球ひろいをした人、そしてそれを陰ながら応援した男生徒。これら四二名が戦いにたえぬき、その後に来

る勝利を願いながら練習にはげました。もちろんいろいろなトラブルはありました。

しかし、みんなの心がひとつに結ばれている、ということは強いものです。そんなトラブルは、いつのまにか消えてしまいました。そして当日、この努力が実り、優勝にまで持って行く事が出来ました。だからからも期待される事がなかっただけに、この喜びは大きいものでした。この結果には、選手の努力はもちろんの事、我がクラスのはつらつとしたエネルギーな力と、その根底に流れていた根強い友情と協力とがあったからだと思います。私はこの時「どんな事でもやれば出来るのだ。友情と協力とがあれば——」こう思いました。

又、友情を育てるためには、勇気も必要のようです。こんな事がありました。

私はある日、仲の良い友達に、ずばり私の欠点を注意されたのです。私は突然の事で、何が何だかわからず、彼女に対して、にくしみの気持ちを感じたりしたものです。しかし、その後「なぜあんな事を言われたのか」をよく考えてみました。そして、やっと気がついたのです。

彼女こそ、私の事を本当によく考えて、真の友情を持って接してしてくれた、ただ一人の友人だったと言う事が。友達だからと言ってべこべこについて歩き、友達の見解には善悪関係なく同意する人がいます。こんな友情はないのと同じです。

むしろ、こんな友情などはない方が良いのです。友達であるからこそ、勇気と誠意とを持って欠点を注意してやり、そして良い方向へと導いてやる。これが真の友情ではないでしょうか。

友達を注意してやった結果、その仲がこわれてもいいではありませんか。友達のためになるのだったら。

これから私達三年生に待ちかまえているものは、卒業、そして受験、就職です。最後の義務教育を終え、立派な人間として社会へ巣立っていく上で、中学生生活三年間で学び得た友情というものが、どんなに私達の人間形成に役立つ事でしょう。友情は成長のおそい植物です。そして、友情という空気を吸って生きている私達なら、この植物を少しでも早く成長させようと努力する事が必要です。

これから社会へと巣立つ私達の友情を、よりいっそう深めるためにも、心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、私達の友達を心から愛せる人間になろうではありませんか。

努 力

二年 本郷 昌 幸

耳新しい言葉ではありませんが、「努力」、この言葉こそ、人間にとつて最も大切な言葉ではないでしょうか。人間は努力なしで生きてゆくことは、まず不可能といっても過言ではないと思います。どの人も、必ずなんらかの形で努力しているでしょう。

私たちの生活の中で、どの面をとつても、努力をしない人間は何をやっても成功しません。そういう人は、自己嫌悪に陥って悲観したり、軽べつされる人となるだけでしょう。一方、努力した人は、たとえ最初は上手にいかなかったとしても、自分では満足感を味わえるであらうし、みんなからも好かれる人になると思います。

さて皆さん、ここで、私が知っているAさんの人生を紹介し、努力とは人生において、どんなに大切であるか、私たち一人一人の心の中に喚起し、かみしめてみたいと思います。

Aさんは幼少の頃に、ある事故により両足を負傷し、一生治らない身体障害者となっていました。

子供の頃より、負けず嫌いな、意志の強かったAさんは、普通の人と同じように、いや、普通の人には負けない位の努力の積み重ねがなければこれからの社会では生活していけないと考え、小学校にはいる頃に、普通の人のように野球をやる事にしました。悲しいことに、走ることは普通の人の倍もタイムがかかりましたが、投げることで、そして受けること、打つことに専念し、長打を飛ばすことによって鈍足をカバーし、普通の人のいやがる捕手のポジションで正確な二塁への送球で足におぼれるランナーを殺しました。そして小学校を卒業する頃には、部の主将となり、野球部全員を指導する立場になりました。学校を卒業して、職業に就いた後も、その職場で流行した剣道を、先生が無理だと言うのも聞かずに、同輩が二時間の練習の場合は三時間と努力を重ねて、わずか三カ月で、初段の免許を取りました。もちろん、その間も、学校で努力した野球を続け、職場野球の指導者として、努めてきました。

このAさんなどは努力した結果が普通人を制した、と言えましよう。

また、昔中日ドラゴンズに近藤という投手がいて、負傷のため、右手の指が三本しか使えなくなりましたが、これにひるまず三本指で投げれる独得の魔球を苦心してあみ出し、群がる対戦相手の強打者を打ちとつたとの話を父より聞かされました。

このように、その人その人によって、生活条件や、生活環境は異なるのでありましようが、人間として、より立派な生活をしようとする心算を持てない人は不幸な人だと思います。人間として、本当の幸福とは、お金持ちになることでもなければ、また、自由気ままな毎日を送ることでもなく、満ち足りた心情を持てることにありと私は信じます。ここにあげた人たちは「努力」によって、他の人に味わえない満足感をいただくことができた人たちだと思います。

よく、少しも努力をしないで自分はだめだと思いこんでしまう人がいますが、そんなことではいけません。どんなに困難なことでも努力一つでほとんどのことは解決がつくと思います。大松監督の名言「なせばなる」などは、そういう人に聞かせてやりたいものです。皆さん、「努力」この二字を心に刻みつけて明日からの毎日を過ごそうではありませんか。最後に、次の金言をつけ加えて終わりにします。

- 一つ 天才は努力の別名である（エジソン）
- 二つ 人間は努力している限り、まちがいをするものだらけ（ゲーテ）
- 三つ 英雄とは自分のできることをした人である（ロマン・ローラ）

環 境

一 年 大 平 朋 子

水分の少ない、焼けただれるような暑さの中で、サボテンは成長する。ほかの生物のように住めないようなこの場所が、サボテン

にとつては大事な大事な生活の場であり、なくてはならないところなのです。彼らはなん代もなん代も生まれ変わり、長い歳月をへてこのようなところで立派に生活し、生長出来るようになったのです。サボテンに限らず、生物のすべては、長い間に自分達のおかれた環境の中で、よりよい暮らしのために戦い、変化し進歩してきたのです。

私達、人間も同じです。長い歴史の中で、その時々の人々が考え実行し、一生けん命生きぬいてきたのです。私達は、これを土台にして、これからの生活を設計し、築いて行かなければならないのです。

皆さん。大きな目を開いて私達のまわりを見てみましょう。もちろん一人一人の顔や性格がちがうように、私達を取りまく環境もさまざまです。家族の問題、学級、学校の問題、その他たくさん問題があります。私達は中学生です。知識はもちろん社会生活の基礎を学んでいるものです。その学校生活の中で、実のある毎日を過ごすために、はたして今のままでよいのでしょうか。

生活部の週目標は依然として変わりません。毎週同じような注意事項が並んでいます。廊下で遊ばない。遅刻をしない。鐘がなったら座席につく等、全くだいじやになります。

なぜみんなが真剣に考え、注意事項がなくなるように努力しないのでしょうか。

人ごとではありません。私達のことなのです。廊下に落ちている紙を見ても「だれか拾うだろう」と見て見ないふりをして行きすぎたり、教室、廊下のみさかいいもなく、走りまわったり、悪いことをした人をかばうことを友情とかんちがいしたり、私達のまわりには数えあげたら数限りなく多くの問題があります。もちろん個人に責任のある問題もあります。

しかし多くは私達、五稜中学校生徒全体の責任でないでしょうか。一人一人が小さいところに気をくばり、みんながお互いに注意しあいすればよいと思います。

なぜ注意が出来ないのでしょう。なぜ注意されてもすなおに聞き悪いところをなおそうとしないのでしょう。「人間は考える葦である」となりました。皆さん、考えてみませんか。考えましょう、生活部だけの問題ではありません。出来ることから手をつけ、実行するのです。そうすると少しずつでも変わってくるでしょう。良いと思ったことはすぐやりましょう。

一年のある組からだされた「水呑み場に花を」という運動が今ではどの水呑み場にもありますね、ほほえましい情景です。

私達にも出来るものが、まだまだたくさんあると思います。きもちの良い学校に、静かに勉強のできる状態にするために。

環境は人間が造るものです。

そして、その中で生活し、もっともよい環境にしていくなために努力しているのです。悪い環境にも負けずに立派になった人達がたくさんいます。その人達は「こんなことには負けない」という強い意志の力があつたからだだと思います。自分の意志によって悪い環境に耐え、それをねのけて進歩し、発展することこそ人間の尊さであり、すばらしさであると思います。

環境は人間が造るものです。

皆さん、もう一度、私達のまわりを見てみましょう。やらなければならぬことが一ぱいです。あすこにも、ここにも、いやすぐ目の前にもたくさんあります。

私達の環境は私達の手で作らなければ、だれも作ってくれませぬ。たのしい生活を過ごすために、私達一人一人が真剣に考えましょう。もう一度いいいます。環境は人間によって造られるのです。

俳句

一年

青空に雲ひとつなく春うらら

吉田 恵美子

若草の上に寝て見るよいの星

山崎 台

野球部の声高らかに春の空

大和 厚子

晴れた日のプールの水のさわがしく

沢口 優子

文化祭近づき夜ごとあかりつく

本谷 誠

朝もやの寒さわすれて魚釣る

野田 繁樹

編みものをしてる母の姿見る

星 千秋

初雪や小さいつづが目にしみる

野呂 佳代

朝起きてつらら美し冬休み

高江 敏夫

雪野原、夕日いろあせ、みかん色

斎藤 修平

晴れた日のつららまぶしく日の光

長谷 典子

淡雪の光まばゆく、春近し

高橋 義博

報 専 門 部 と

部 クラブの歩み



専 門 部

▼保健体育部

各学級の保健体育委員が三年E組で顔を合
わせてから、はや一年がたとうとしています
みなさんは保健体育委員ときくとたのしいだ
ろうなあ、おもしろいだろうなあと思うだろ
う。しかし、各部を通じて一番苦労するのは
この体育部だということはこの一年を通じて
初めて知りました。保健体育部の今年一年の
主な行事を上げてみると、運動会、今年新設
されたブルで行なわれた水上競技大会、春
秋冬の遠足、校内球技大会、とたくさんあり
ました。保健体育委員の一番いそがしいのは
体育の授業の時間です。体育委員は体育の時

間の責任者である。体育委員一人一人で大勢
の人を体育の授業の態勢に整えることは容易
ではありません。

その他校内陸上競技大会、中体連の行事と
運動関係の行事で、みんなが楽しいときでも
大声をはり上げて整理したり、最も楽しい行
事ができるように心がけていなくてはなりま
せん。

次に忘れてはならない保健体育委員の大事
な事として、「保健」である。

まず大掃除、次にレントゲン検査、ツベルク
リン反応、BCG接種、内科検診、眼科検診
……と上げるときりがなくらい保健体育委
員の仕事はある。一日の学校生活の中で運動
が全く関係のない日はありえないだろう。僕
達保健体育部はその生活の運動で、生徒諸君

の先頭に立ち、保健体育委員という立場が模
範的行動をとるように心がけなければならな
い。これはちょっとやさそとで動まらな
い。これだけ、阿部、岡本両先生をはじめ、
先生方のご指導があつて僕達もどうやら一年
間を無事に過ごしてきました。

最後に後輩にひとこと、新三年生は一・二
年の自発的協力を得て、この体育部を明る
いよりよい部としていくことを希望します。

(部長)

▼整 美 部

「五稜中学校整美部」、それは各学年各組
男女一名ずつ優秀なる人材三十八名によつて
構成されています。(優秀かどうかは皆さん
の適切な判断におまかせします。)

ぼくが整美委員に選任されたのは二学期、
しかもはじめて選ばれたのですから今まで自
分たちのクラスの整美委員がやってきたのを見
て覚えていた以外の仕事はまったくといって
いほど知りませんでした。

しかし、新たに選ばれ、その仕事について
みると以外にむずかしく、はたで見るとよりつ
らい仕事であることがわかりました。さてこ
の整美部の仕事を紹介しましょう。

(一) 整美部担当の先生を中心に校内の清掃を

部 報

整美部の第一の仕事としています。

(二) 担当の先生を中心に校具の管理などが第一の仕事です。

校舎内の清掃には、毎日の掃除・毎月一回の中掃除・学期末の大掃除などがそれです。しかしそれらの仕事もたいしてまじめにやっていたわけではなくなんとなく過こして来てしまいました。

又教室内の美化も小さな事ではありますがみんなの気持ちを動かすきわめて大きな仕事ではないかと思ひます。それから皆さんの専門部に対する関心の実態も、「おれは委員なんかじゃないから関係ない」というような具合でまったく無関心でなかったのではないのでしょうか。ゆえに教室内の風紀を左右する、花、その他教室に関する装飾品などもいつも持ってくるのは決まった人だけというのが各組の様子ではないかと思ひます。

しかしこれを百八十度回転させてみんなが協力し一人一人が主人公になったつもりでやるなら、室内美化・その他毎日の掃除・中掃除・大掃除などもうまい具合にいくのではないかと思ひます。

ぼくたち三年生は中学校生活のどたんば九回裏まで来ています。これらの事を残された

わずかの時間で徹底して行なうのはむりのように思ひます。しかし、後輩諸君ノ一・二年生の皆さんにはまだたくさん時間とたくさんエネルギーがあるでしょう。

私たち三年生が残したそれらの大きな仕事を皆さんのありあまるフアイトとちままの行動力によってりっぱになしとげてくださ

▼生活部

生活部は、我々中学生にとっては、なくてはならないものです。

中学校生活の一日を、安全で規律のあるよいものにするために、76人の生徒と2人の先生とが一緒になって、活動しています。

生活委員の仕事は、四週間に一度、看護になり、その週は他の生徒より早く学校に来てその日の看護の先生と打ち合わせ、腕章をつけ、八時三十分の鐘が鳴ると、玄関に出て、遅刻者を調べ、休み時間は、遊ぶことができず、廊下、体育館、教室内の状況を見、土曜日の放課後には、相談室に集まって、反省を発表し、次週の目標、注意事項をきめる。

このほかに、月に一度、生活委員会を開き、その月の反省や、問題を討議し合っています。

ます。また、学校放送を活用して、それなりの効果をあげてきました。

このように、生活部は活動しています。

しかし、我々がこのようにやっても、規則を守ってくれない人は、まだ、たくさんいます。人間は完全ではありません。だからといって規則を、やぶっていいというのもありません。人間は、だれでもあやまち、失敗をします。しかし、あやまち、失敗を直そうと心がけることが大切です。ですから、規則を守り、規則をやぶった人がいたら注意するようにしたら、五稜中も外側だけでなく、内側もよい学校になるでしょう。

生活委員の使命は非常に大きく重大です。ですから、後輩諸君は、全校生徒と協力して中学校生活を規律ある楽しいものとしていてもらいたい。

(園子 均)

▼厚生部

私が厚生委員を始めたのは一年生の後期です。その間二年半、厚生委員として仕事をしてきましたが、この二年半という間には厚生部の仕事もずいぶん方法が変わりました。

私が一年生で厚生という仕事にいた時は大変な仕事だと、つくづく思ひました。その

報

ころはまだ今のように簡単な方法でパンは受けとれず、缶の中に合計金額を入れておじさんの所に行き、我れ先きにと、受けとり、数をたしかめ、ようやく教室にもっていくことができる、こういうしくみでした。

ところが、今ではふくろの中に合計金額を入れ、おぼさんの所にもって行き、そこですぐふくろと交換してパンを受けとるというところでも早い方法でパンを受けとれますが、この年月を経てもまだなおらないことが一つあります。それはパンを受けとるのに、順番をまたずに、我れ先きにと人を押しのけてパンを受けとることです。

私の一番注意したいことは、このこと一つだけです。今このように簡単になったのだからこそこれ一つだけでも確実に守ってほしいと思います。ところで、この厚生の仕事をやっている一番うれしいことは、今年からパン屋さんでパンの種類をたくさんふやし、みんなにおいしいパンを食べてもらおうとしていることです。これからは厚生委員や生徒のみなさんにとって大変うれしいことだろうと思います。

それからこれはこのあと二・三年になるみなさんへのお願いですが、パンのふくろとカ

ゴはきたなくなったら、すぐ各クラス責任をもってほしいということです。用務員のおぼさんや、整美のみなさん、洗っていただいて有りがとうございました。

以上、私からの気のついた点ですが、これからも、この点に気をつけてよりよい厚生部を作りあげてほしいと思います。

(清水恵美子)

▼図書部

図書部は今まで本の貸し出しを中心にして運営してきましたが、今年からは、図書館も広くなったので、閲覧も行なうことになりました。

今年はまだ一つ大きなことがありました。二学期からでしたが、二週間に一回の貸し出しが、一週間に一回になりました。これで、二週間も待たなくてすむようになりました。

図書閲覧は、月・火・木・金の四日間放課後、一時間から一時間半ぐらい、閲覧できます。中には閲覧をしないで、ただ図書館に行つてさわいでいるような人がいますが、これは、やめてください。また、閲覧カードも必ず書いてください。これは、後で資料にもなりますから。

閲覧の一番の注意として、図書館は本を読んだりする所ですから、第一に静かにすることです。もしさわいでいる人があったら退館してもらいますから、注意してください。

図書の貸し出しは、土曜日、一人一冊が原則です。借りた時のカードは、必ず、自分のクラスのカード入れに入れてください。そして、返さい日には必ず図書委員に提出するようになしてください。

また、図書館に図書委員がいる時以外、絶対に図書館に入らないようにしてください。無断で本を持ち出すようなこともしないようにしてください。

図書館の鍵は、たびたび紛失します。図書委員、及び鍵を使用した人は必ず職員室に返すこと、用務員室のは、使用しないでください。

これからも、図書館に、本は増す一方でしよう。まだまだ本は、不足していますが、図書の方に、入りたい本がありましたら、先生又は、図書委員にいつててください。

勉強のため、知識を広めるためにも、図書館を大いに利用してください。

(森山宏幸)

▼放送局

僕は、五稜中学校へ入ってから中学二年生まで放送を流してきました。

僕だけではなく放送局員は、みんな一生懸命に昼食の時間などに全教室に流しているのですが、僕が放送当番ではない時など教室の様子などを見ていると、まず何かを食べている時はいっばんに静かだが、食べ終わるともう放送などはそっちのけで、おしゃべりをして、これでは放送局員がいくらしゃべりしていても、何のプラスにもなっていないのでやらないほうが良いと思うが。

しかし、聞いている人も一部はいるので、そういうこともできない。だから個人個人がもっともつと気をつけて聞いてくれば、放送局員のみんなだって放課後など残るのは、やりがいがあるといつて喜んでやってくれると思う。が、現じょうでは、放送局員というものにただ放課後残つて、次の昼食の時間にテープをかけるだけで何の楽しみも喜びもないと思う。

さっきも言ったけれど、僕としてはほんとうに「個人個人が気をつけてほしい」ただそれだけで放送というものから何かを学んではいいと思う。

さて、放送というものは、みんなのためにあるものだから、たくさんの方送に對する批評がほしい。気がついたことがあれば放送局員が何十人もいるのだから話をしておいてもええそれだけでいいのです。もっとも放送を使つて一つでも二つでも学んでほしいと思つています。みなさん、放送をよく聞いて下さい。

(高橋 祝樹)

文化クラブ

▼弁論部

卒業にあつて、弁論部から今年一年の反省を書きたいと思ひます。

弁論といつても、「こんなクラブがあつたの」と思う人が多いでしょう。

それもそのはず、弁論部が活発になつてきたのは、今年が初めてだからです。

活発になつてきたといえ、今年は道南の弁論大会に、学校代表として出場した成果はあまり良くありませんでした。

そこで、私はこの一年間の弁論部のリーダーとして、これらの原因は次のようなことにあつたと思ひます。部員が少なかつたこと、

高学年の部員が少ないこと、型だけの部員が何人かいたことです。

弁論部は他のクラブのように活発になりたといと努力しましたが、来年のみなさんへのおねがいとなつてしまつたことは、残念なことです。これを取りのぞくことのできるのは、これからの二・三年のみなさんとこんど入学する一年生によつて作られていくようになつてしまつたのです。もっと、もっと、徹底的に弁論クラブを活発にしてくださいようにおねがいします。

部長と言つても部員のみなさんになにもしてやれなかつたことは残念です。

でも、クラブに入つて良かったと言えるクラブだつたことはうれしいです。これが卒業するものとしての反省と希望です。

(部長)

▼社会部

社会クラブ員としての欲かも知れないが、このクラブは、あまりにもおそまつな状態にあると思う。クラブ員が少ない。これは、このクラブに関心を持つ人が少ないことによるといえ、それはしょうがないが、予算が少ない。又専門的な部室がない。クラブに必要

報

な道具が少ない。

これは、私達クラブ員にとって大きな仕事をする上の大きな障害となっている。現に今年の文化祭の時、社会クラブの本質としては研究結果を書いて、それをあればよい事になるが、それでは、みんな目もくれない、そして私たちとしても、研究のかわがない。そのために、少しの事でもより多くの図と模型などで示さなければならなかった。

しかし、その時準備に使った教室は三Aであったが、教室に残っている人のために、いや、残っているために、そして、机の上にカバンなどが上がっているためにクラブを開くには、十分な状態ではなかった。しかも、それに重なって、当番が終われば、もう四時近くになってしまふ、そのため、実質的に言って、二時間満々仕事ができなかった。

又、二階の教材室から三Aへの往復は大きな時間つぶしであった。模型を作るために、角材や紙を切ったり、きびがらを削った事もあった。しかし、私達はそのために、多くの人が、その時くぎとかなづちを探し歩いていました。

ざっと言つて、こんなような事でした。けれど、私達は、最善をつくし、社会クラブの全勢力をかけて、今年はやりました。

みなさんは、どうみているか分りませんけれども、私達は、自分かつてながら、よかったですと思っています。

今、二年生に言いたい事は、私達の成しとげれなかった、誰から見てもよかったと言われるクラブ展示とクラブに仕立て上げてほしいと思います。

(山形 肇 弘)
(南 隆 雄)

▼音楽クラブ

音楽クラブの部員は約六十名で多くは女生徒です。音楽は心をゆたかにするものなので心のいらいらした時など歌うとすっきりした気分になります。しかし、コンクール、あるいは文化祭などが近づくとか何回も何回も練習するので、のどが痛くなったりします。

このように、音楽クラブは、レクレーションのように思われがちですが、けつしてそのようなものではありません。声の良い人はみとめられます。いわゆるおおげさに言うと競争です。

私達三年が後輩に望む事は私達が出来なかったことをどしどししてほしい、この一言です。

(庄司 幸代)

▼美術クラブ

美術部の一年を振り返ってみよう。前はゼマイ美術室であったが、今年は立派な美術室が出来、張りきっていたが、去年にくらべて部員数が少なかった事は残念であった。でもクラブとしては非常に自主性があり、活動的であったと思います。

指導して下さった先生は、私達にとってよきアイドルと共に、美術的な顔の持ち主の安井先生で、美術の基礎や筆のつかい方をおしえてもらった。

夏のプール開きの壁画で先生に筆のつかい方が悪いと注意されたりした事もあった。放課後などクラブで絵をかきながらおもしろい話をしたり絵についていろいろと批評したりした。

文化祭の時は大へん忙しかった。女子は自主的にステンドグラスをつくっていたようであった。画用紙を切りながらしゃべって皆を笑わしているF子さん、皆仕事におわれていたがたのしそうにやっていた。おもしろかった事は約二メートル位あるトルソのじかづけだった。

先生が先に土台を作り石膏をつけていったが、とき方がすくなかったので、まずしさが

部 報

すぐわかるなどといつてつたてくれたH君とD君とで、大笑いをした事もあった。文化祭も終わった。振り返ってみると部員は少なかったけれど、たのしい事が多かった。

三年生の部員は、三月には学校、クラブとも別れるが、残った皆さんは新しくはいる人と力を合わせてよりよいクラブにしてくれる事をお願いいたします。(佐藤 勉)

▼化学クラブ

文化系のクラブは、日頃のクラブ活動を通じて、実験・研究されたものを、文化祭という一大行事に発表し、父兄・校友などに見せてはじめてりっぱなクラブ活動というもので、友情が深められると思います。

三年間で、感じたことは、クラブ員の出入りがひじょうに多いように思います。三年間毎年顧問の先生も、おちつきませんでした。また一年・二年・三年でクラブ員の数があまりにもかたよりすぎ、各学年ごとのクラブ活動が思うようにできませんでした。

今年の活動は何といった目標も立てずに、ただ文化祭を成功させることだけにとどまりました。先生の熱心なご指導と全員の協力によって前例のない、はなやかで化学らし

い文化祭ができました。中でも全員の協力によってできた高性能ロボット^①は、中を全部機械装置、握手するとシビレ(感電)といったもので、そのほかにもいろいろの装置がつき、また話すようにしようとマイクなど入れましたが、当日ぐあいがあるくなつたのは残念でした。

その他天井までも噴煙、火柱を上げる、昭和山。卓上の花ケミカルガーデン・ガラス細工、まほうの噴水(アンモニア噴水)など……。

また来年のためとアンケートをいただき、よい参考になりました。今年は、化学、生物発明と一室で展示したため、ものすごいこんざつでしたが、にぎやかで学校祭という感じが強く出ました。大成功のうちに終わったと思います。

現在、部員は男子二十名ぐらいで、女子はいなく、来年は、男女ともで倍ぐらいにふえてほしいと思います。

五校中の理科室のようなりっぱな室を持つ化学クラブはめったにないでしょう。これからも化学室にはじないようなりっぱなクラブにしてもらいたいものです。

(中嶋 洋 見)

▼生物クラブ

私達のクラブは、今年をふりかえってみると、いろいろなことがありました。

まず、今年の予算で、プランクトンの遠心分類器を購入したことによって、今年は、微生物の方面を研究課題に決定しました。天候が悪かったせいか、夏休みの作品数も少なく金貨に入賞したのが二名。昨年は作品が多かったで、文化祭の時の教室も一室でしたが今年は化学、発明と同じ室であったのが今年が一番残念なことでした。

プランクトン採集は大沼まで行ってきましたが、まだ今年が最初なので、うまいようにはいきませんでした。今後まだまだ研究が必要で、後輩に期待しています。

最後に、これからの生物部について、普通生物と言うのは、文化部で、文化部の成果を示す文化祭に、作品の出品が少ないのは残念です。来年は、たくさん出品してください。

文化祭のプランクトンはあまり良くありませんでした。来年の文化祭は、もっと良いものを作ってください。

最後に生物クラブは、一番部費を必要とすると思います。標本箱やその他飼育箱とかいろいろあります。来年はもっと部費を多くし

報

てください。先生方にも、お願いいたしま

す。
生物クラブは部員が少ないですから、好きな人はどんどん入ってください。好きな人ならだれでも大歓迎です。五稜中学は、赤川にも近く、採集しに行くにはたいへん良い所です。来年の生物クラブに期待します。

(森 山 宏 幸)

部

▼工作クラブ

本校の工作クラブの歴史はまだ新しい。クラブがつくられてから三年位なので意外と生徒に知られてなく「工作クラブなどと言うものがあるのですか」という調子で残念に思います。

自分の手でものを作ったり分解したりすることは大変たのしいことです。このような造型の魅力に引かれて僕はクラブに入りました。工作クラブは他のクラブのようにしてではないのでクラブ員が少なく、三年生は僕一人でした。一・二年のクラブ員の人達は僕の言うことをあまりよく聞いてくれなくて上手にまとめることが出来ませんでした。みんな弟のような感じできつくしかる気になれませんでした。

文化祭のときは一週間位前から非常に忙しくなり、作品を作るために夜の八時や九時まで頑張ることもあって全員一致、よくやってくれました。しかし、しばしば夜おそくなり、お母さん方にもご心配をかけたことを申し訳なく思っています。

松井先生からは工作の技術を通して人格づくりの基礎をご指導いただき、一生の思い出となって、僕達の頭の中に残ることでしょ。ありがとうございます。

一・二年のクラブのみなさん、全員協力して五稜中の工作クラブを伝統あるものに大きく育て上げるよう努力してください。

(山 本 敏 恒)

▼家庭科クラブ

五月に新しくクラブの発表があり、私は家庭科クラブに入りました。昨年もこのクラブでしたが、参加したのは数回。

それで、中学生も最後のこの一年間は、もう一度入り直し、みんなで協力してクラブの仕事をしてみようと考えました。

部員数五十名近く、クラブとしては大人数です。私達は文化祭を目標に置き、毎週土曜日を活動日と決めました。部員の希望を多く

取り入れるようにして計画を立て、さっそく実行していきました。

だんだんとお互いに気も合って、楽しいクラブが続く、夏休みには科学クラブと合同で、炊事遠足に行きました。

成田先生を囲んでみんなで炊事をしたり、水遊びに夢中になったり、大変良い思い出もあります。しかし、楽しいことばかりではありません。部員が十名足らずしか参加しなかったり、止める人も少なくありませんでした。

文化祭の二・三週間前からは、作品の準備にかかりました。今年は家庭科クラブが独立してテーマを持つことになり、みんなはりきりで、自分の仕事に精を出しました。それでも作品は思うように進まず、心配しましたが、先生の熱心なご指導と、全員の協力、努力があつて、何とか前日まで間に合いました。

このようにでき上がった作品は、どれを見ても、気持ちのよいものです。全員が協力すれば、何でもできない物はないと思いました。

この一年間を通して良かった点は、部員の話し合いの場を、たくさん持てたことです。一・二年の皆さん、来年も全員が参加して、

部 報

今年できなかった事を、実現して下さい。
そしてみんなに親しまれるような、良いク
ラブになるよう頑張ってください。

(山 田 律)

▼将棋同好会

将棋クラブが発足してからまだ二年しかた
っていません。しかし、なかなか人気がある
らしく、クラブ員以外にときどき来て楽しん
でいる人もいます。

週に一度の練習日はとくに一年生が多く、
勝ったときなど得意顔です。顧問である将棋
五段の竹内先生は戦略や駒の進めかたなどい
ろいろなことを教えてくださいました。私は
友と名人戦のようにやっていて時間がおそく
なり、日直の先生から、おこられたこともあ
りました。しかし、それがかえっていいま
えで一つになっています。

私はこのクラブにはいて、人間にとって
必要なものを得たような気がします。

今、クラブ員は三十五名ぐらいいます。

皆さんも、だれでもいいですから暇があつ
たら将棋をやりに来てください。

(大 塚 和 朗)

運動クラブ

▼陸上競技部

先輩からバトンを受け継ぎ、今年は二連勝
を目ざして我々陸上部員は基本練習を積み重
ねて絶好のコンディションにもって行こうと
努力した。

六月二十五日・二十七日(二十六日雨で延
期)良い天気恵まれ、千代ヶ岳陸上競技場
で行なわれた第十八回中体連陸上競技大会は
熱狂的な応援のもとに繰り広げられた。選手
はフィールド、トラックと全力を尽くして闘
ったが、日頃の成績を上げる事ができず、
男子二位、女子三位、総合二位で終わった。
これは五稜の陸上部はじまって以来の不成績
だった。この成績を盛り上げるために、後輩
諸君は、陸上のモットーである、「雨にも負
けず、風にも負けず、雪にも負けず、ただひ
たすらに目標に向かって常に心がける態度で
前進する」この言葉を忘れずに練習に練習を
重ねて、伝統ある五稜中学校陸上部をさらに
高めていくよう一生懸命頑張ってください。

(部 長)

▼体 操 部

今年の体操部員は去年の先輩が築いてくれ
た優勝という伝統を守り通すため先輩にまけ
ないくらい一生懸命練習にはげみました。

夏休みは一日もかかさず練習をしました。
日々は刻々とすぎざって行きます。練習も
総仕上げにかかりました。あとは試合の日を
待つばかりとなりました。

そして、その試合の日、朝早くから学校に
来て身体の調子を整えました。

八時半頃我々は大会校である旭中学校に行
きました。その時の気持ちは「勝たなければ
ならない、でも、もし……。」と、考えると
なんとも言いようのない気持ちでした。しか
し、みんな自分の持っている力を十二分に発
揮して、くいのない試合が出来たと思いま
す。

その結果は男子第一位、女子は第二位。こ
れは我々にとってくいのない結果でした。

これもひとえに阿部先生、萩原先生と先輩
のご指導のたまものだと思っています。

後輩の部員達も、卒業して行く我々以上に
頑張つて五稜の体操は函館一、いや北海道一
と言われるようになるまで努力に努力を重ね
てください。

(児 玉 昭 夫)

報

部

▼柔道部

まだ柔道部とはいっても名前だけです、それが出来たきっかけを最初に話したいと思います。ほくら三人が阿部先生に、中体連に出してくださいと頼んだことがそもその始まりです。

そうして、だんだんと入る人がふえて来ました。今では一年生が五人、二年生も五人、三年生は四人と十五人近くを数えるようになりました。その中で初めてやる人は二人だけで残りの人は習っている人ばかりです。小さい人ばかりなので大きい人がほしいと思っています。ただ畳が少ないのがちょっと残念です。ここで欲を少し言うならば、もう少し後輩はまじめに、一生懸命やってほしいということです。

今の僕達三年生はあまり良い成績を残すことが出来ませんでした、あとに残った一・二年生は優勝とはいかなくとも、せめて入賞くらいはしてもらいたいと思っています。

後に残る一・二年生のみなさん、どうぞ出き立てはやはやの柔道部をより立派にみなさん自身の手で築き上げて下さい。

(城地)

▼水泳部

青い水が満々とたたえられた天然色映画の中のようなプールを目の前にみてまた夢のようでした。しかし、その中にとび込んで冷たい水のすがすがしさに包まれてはじめてプールの出来たことが文字通り実感となって参りました。

本州の大都市では学校にプールのあるのは珍しいことでないかも知れませんが、北海道ではプールというのは何かぜいたくなように思われて来ました。

しかしプールのある学校では時間的な差はあってもすべての生徒が泳げるようになるのは確実な事で、体育を担当している私共もしプールがあったらと夢みていました。

およそスポーツ或いは運動と名のつくものの中で、身につけて直接それが生命にかかわりがあるといったらそれは水泳をおいて他にはないと思います。

人間の生活するところ常に水はあります。海の中へまた河の中へ船が沈み、堤防から落ちるようなことに会ったり、また他人の危難を救わなければならないこともあるかも知れません。こんなとき泳ぎを知らなかったらどうなるでしょう。

私達は函館に住み四方海に囲まれています、が安全度清潔度などの点でなかなか適当な泳ぎ場所がありません。そして意外と泳げない中学生も多いのです。

この中で市や父兄の方々の熱意で五校にプールが出来たことは私共にとってしあわせこの上ないことだと思っています。

全身運動として水泳は理想的といわれ、また皮膚の鍛錬にもなってあらゆる病氣への抵抗力を増して来るのです。世界一富める国アメリカではプール施設が特別発達していることは何よりもこのことを物語っています。

皆さん、シーズンが来たら大いに泳ぎ、そして記録へも挑戦し、私達のプールをいつまでも美しく保ちましょう。

今年の夏が過ぎたとき泳げない生徒は誰一人いなくなることを信じ、楽しみにしています。
(保体部〇記)

▼野球部

今年も、われら野球部の念願は果たせなかった。来年こそは、一・二年の部員でこの念願を果たしてほしいと、三年生の部員は願っていると思う。

少年野球では、潮見中と対戦、5対0と負

報

部

けた。しかし、われらにとって、思い残すことはない。三年間、というものの中には楽しいこと、苦しいことがいくつもあつた。苦しい練習の中にも、楽しいくつろぎがあつた。野球をしていると、何もかも忘れてしまふ、無心に球を追ひ、くたばるまでしぼられる。

それでも、もんくは、一人も言わない。楽しいからだ。一・二年の部員たちに言いたいことは、この苦しい中にも、楽しさのあることを忘れずに、練習をまじめに、真剣にやりその中に、友情を育てると共に、しっかりとチームワークを作つてほしいと思う。

チームワークのないチームは勝てない、これは事実だ。われら三年の部員は、やがて、この学校を去らなければならない。

一・二年の部員は、たよる者のいなくなることをはっきり自覚して、練習に励んでほしいと思う。少年野球、中体連と、敗れたしたが、一・二年の部員には、チャンスがあるのだから、がんばつてほしいものだ。

今年一年間の反省として、冬期練習が活発でなかったこと。野球部にとって、冬は練習が単調になりがちであるが、練習を休まずやつてほしい。それに一年生の参加が、少なかったことなどがある。

今年は、念願のバツクネットが立ち、グラウンドも完備された。これも、学校からの期待が大きいからだと思う。われら三年は、一・二年の部員に期待したい。

(渡辺祝安)

▼ 籠 球 部

籠球部が成立してから四年たった。そして去年から、中体連に出場することになった。去年は初出場なので、選手は上がつてしまい、実力を出すことができなかった。

今年こそ一勝ぐらいしたいとおもつて練習に練習をかさねた。夏の練習は一番つらかった。体育館はムンムンして、暑苦しくて、足は体育館を走り廻るので棒のようになって、練習の終わった後は歩くのもおっくうであつた。こんな練習が毎日行なわれた。

中体連の前日、はじめての練習試合を的場と行なつたが、負けてしまい、みんながっかりした。それから学校へ戻つて一時間ぐらい練習をして家へ帰つた。中体連の日、みんな揃つて中央中学校の会場へいった。

開会式に出た僕たちは他校選手の背の高いのおどろいた。ちよつと高校生かなつとおもうくらいの人が、一チームに一人か二人は

いるので、僕たちは、小さくみえた。試合を見ているうちに、僕たちの番になった。相手の学校は光成だった。

前半は0-13で負けていたので、もう点数をやれないとおもつたが、後半にやっと11点をいれたものの、50点以上も差をつけられて負けてしまった。

今、考えてみると、僕の統率力が弱かったからだとおもう。

籠球部ノこれからだ。立派なリーダーと共に、勝利を目差して一步一步、がんばつて下さい。

(川村 進)

▼ 庭 球 部

「中体連」という語句を見ると、僕の頭の中には「ガングラン」と言う歓声の中で打った最後の一球のボールが思い出されてならない。あの一球で敗戦が決まつた。その瞬間僕の心は、いや庭球部全員は今までの猛練習の結果がこんなに、あつけないものなのか、と感じたに違いない。

さて、ここで試合の内容を言ってみると、団体はリーグ戦で我々五稜中学は三校と対戦することになっていた。

第一戦は港中学校と戦い、3-0で勝ち、

報

部

第二回戦は旭中学とで、これも3-0と圧倒的に勝った。そして予想通り、的場中学も2勝0敗という五稜と同じ好成绩で、五稜と手選の決勝を行なった。そして、3-0であっさり負けた。

個人戦はトーナメントで行なわれ、三回戦で負けた。さて、我々庭球部がこのような目慢出来ない成績で終わってしまった原因は一体なんだろうか。それは確かに技術の面でも優勝したの場中学と比較するといく分落ちるけれども、第一の原因は部員の少なさ、言い換えれば選手層の薄さという所にあると思う。

みなさんも、テレビで行なわれている「デビスカップテニス大会」などを見て、もっと興味を持ってほしいと思う。

去年と今年を比べてみると、力が相当ついてきたと思われる。

つまり我々庭球部の進歩というものは中体連ではつきりされた。このように庭球が格段の進歩をとげたのも、顧問の滝村先生や教生先生として来られた石名坂先生のご協力と我々の努力によってかち得られたのです。

後輩のみなさんも今年の庭球で得た協力と努力をモットーにして、来年の中体連で今以上の成績を残してもらいたい。

(津田 博 昭)

▼卓 球 部

昨年の中体連が終わったと同時に、わが部は、まだ一度もにぎったことのない男子の優勝旗、そしてそれと一緒に三度目の女子の優勝旗をねらって練習にうちこんできた。

とちゅうの練習試合も顧問で、優勝も多いに望みがあるように思えた。しかし、本番の中体連にのぞんで、結果は女子が二位という成績だけに終わった。

第一日目は両方とも無事に勝ち残ったが二日目、男子の対戦校は船見中、一番・二番手はストレートで相手を敗り、あと一人で三位内入賞だと思ったところが、三・四・五とあえなく敗れてしまった。女子はともかく、男子の敗退は予想もしなかったので我々としては実に残念だった。しかし、結果としては残念なものだったけれどもその反面クラブ生活を通して楽しい思い出もあつたように思える。

ただ最後に、後輩の諸君に過去の反省をもとにしてこれからも多いに頑張ってもらいたい。

(岩間 日出夫)

▼排球クラブ

中体連の勝利を夢み、連日の練習に明け暮

れた一年。今年も中体連に優勝することはできなかったが、昨年より実力のない私達にとって当然の結果だった。

中体連を振り返ってみて、いまだに思われるのは、一団体のスポーツにおいて何事もチームワークというものがいかに大切であるかという事である。ほとんどのスポーツがそうではないだろうか、まことに残念でした。敗因は「チームワークのみだれ」、この一言につきました。実力もあり、個人技もあり、始めは優秀とさえいわれたのに、チームワークは部員の協力と信頼から生まれるものなのです。

「ああ、あの時あすればよかったなあー」けれど後悔さきに立たずである。それにはまず何よりも前もって、よく技術を身につけ冷静な行動が出来るような訓練が必要である。

特に排球は、精神力がものをいう。試合の時に充分実力を出せるように後輩諸君に願うわけです。

また、早く体育館が増築して、毎日練習ができるようにしていただけたら、まだまだりっぱな成績をおさめられると思います。

(部長)

▼バドミントンクラブ

わがバドミントンクラブの総員は、約六十名です。コートが小さく、時間も少ないため各学年別に練習日をきめました。練習に来るクラブ員は数多くはなかったけれど、練習に来る数少ない人は週一度の練習日はもちろんのこと、日曜日にも汗にまみれ、くたくたになるまで練習をしました。その努力の結果、数

段上達しました。

しかし、残念ながら中体連の種目に入っていないので、実力を見せるチャンスがなく、非常に残念でした。が、我々クラブ員は中体連を目的とせず、ただスポーツを通して心身の発達、健康を増進させようと、誠実、協調、真理探求の名のもとに、練習をかされたのです。

卒業にあたり、卒業生はこの精神を忘れず社会、学校生活に少しでも役立たせようと決心しました。

また在校生のみなさんも多数バドミントンクラブに入り、よりいっそうの努力を重ね、いままで以上の進展を望みます。五稜バドミントンクラブ、ガンバレ！！

(クラブ員一同)

短歌

一年

あたたかな春の風吹く校庭に、希望に満ちた生徒集まる

野田 繁樹

夏の日海べに遊ぶひとときを潮風ふれる、わたしのはおに

城井田 順子

しかられて教室がシンと静まれば、となりの組の声が聞こえる
西村 一男

ベトナムの平和願いて秋空に静かに飛ばす千羽づるかな

河村 久美子

雪の朝、もの干しざおのあなの中、二羽のすずめがチュンチュンと鳴く
藤宮 まり子

雪の上に寝ながらあおぐ空青く、はてなくひろがることしの計画
菅原 博



作 文

作

文



虫 と 私

三年 白 沢 真 澄

虫という小さな怪物、私はこれが大きいである。一口に「虫」といってもいろいろあるが、私がここで言うのはくもだとかミミズだとか毛虫などのような気味の悪いものである。私はこのような虫を見ると背筋がぞっとしてくる。

そしてすぐにその場から逃げ出したくなってしまふ。たとえば私が一人で道を歩いている時、自分の足もとに毛虫らしい物がいたとする。そうするとそれが毛虫であるかどうかわからなくても、まずドキンとしてその場から少しはなれる。よく、虫をみると悲鳴をあげる人がいるが私の場合は恐ろしくて声も出ない。そしてその毛虫らしき物がほんとうに毛虫なのか。又、動いているのかどうかを確かめる。そしてそれが私の見まちがいであればほっとし、又、本物であればおそれるおそれるその場を通りすぎる。

急いでいる時はそれが本物であろうとにせ物であろうとわざと遠まわりをしてさっさと歩く。もしその時友人と一緒にいれば、そば

にころがっている小石をひろってぶつけることもある。たとえばなかなか当たらずにても命中するまで投げ続ける。

人間とはおかしなもので、自分一人ではできない事も仲間がいるとたやすくできるものだ。そしてその毛虫が動かなくなったのを確かめてから再び歩き出す。

しかし、それからしばらくの間は背中がもそもそしたり、またさっきのような毛虫がひょっこり出て来はしないかと心配しながら歩く。このようなことは女性であればたいいの人は経験したことがあるだろう。男の人は毛虫などを見ても別だん気にもせずさっさと通り過ぎるか、あるいは靴でギョツとふみつけて行く。時にはおもしろ半分に板切れにのせて持って行く人もいる。同じ虫を見てもその反応は人によってずいぶんちがう。

私などは小さな虫を殺すにしても自分の靴でふみつけるのは気味が悪くてとてもできない。それでけっきょくはそばにある小石を投げつける。その石も虫がついていないかどうか気にしながら拾いあげる。ほんとうに私は虫を見ただけでぞっとしてしまふ。

そしていやなことに私はすぐに虫を見つけてしまふのだ。家で本を読んでいる時もなんとどこかで小さな物が動いているような気がする時はたいいてい虫がいる。

ふしぎなことに虫だけは気配でなんとなくわかってしまふ。母は私があまり虫の事を考えるから虫だけが目につくのだと言う。しかしいつも虫の事を思っているわけではない。ほとんどは虫の事などは考えもしない。第一いつでも虫を気にしていたらノイローゼになってしまう。

でも夏になると自然に虫の事を考えてしまう時がある。そういう時にはたいい虫に出会ってしまう。まさか虫に私の心が通じるわけではないだろうに。

しかし考えてみれば虫もかわいそうな生き物である。みんなからいやがられる姿に生まれてきてあげくのはちよつと散歩に出た時に人間に殺される。私達は虫を気味悪がっているがこれらの虫こそ私達人間を恐れているだろう。「人間という巨大な生き物に見つかったらたいい殺される。見つかったらどうしよう。」などと考えているかもしれない。

今度虫を見つけたならその虫が私に対してどんな表情をするのか見てみたい。でもやっぱりだめ、虫を見た瞬間そんなことを考えるどころか、さっさと逃げるか殺してしまいかどうかである。

虫にとっては迷惑な事だろうがそれが虫の運命なのだろう。「人の命は地球よりも重い」などと言いながら虫の命は地球より軽いなんておかしい話である。しかしこうは言いながらもやはり他の人々と同じ事をする。

今年もまた夏がやって来た。そして私のきらいな虫もちよく顔を出すようになった。虫よ、一つ忠告しておこう。人間（特に私）の前にはなるべく姿を見せない方が身のためだ。

津軽岩木スカイライン

三年 黒 滝 光子

8月6日朝7時、私は弘前の伯父の家で目がさめた。農村のすが

すがしい空気を胸いっぱい吸い込んで、津軽の空を見上げた。

天気は？残念ながら曇っていた。きょうは岩木山へ登る予定だったのにガツカリ、ところが朝食の時母が「曇ってるけど登ってみようか」と言ったので、とにかく駅前のバス待合所へ行くことにした。駅前に行ってみるとだんだん晴れてきた。よかったとばかりに私達はさっそくバスに乗り込んだ。二・三年前まで歩いて登らなければならなかったが、現在は8合目付近の山上駐車場までおよそ10kmの有料道路が開通したのでバスで8割登れるのだ。9時50分、バスは発車した。弘前の町中を通過してやがて郊外へ出た。どちらを見ても水田とりんご畑だ。どこまで行っても景色は変わらない。ただどこどこに人家が見えるだけだ。そういう所を約40分バスは走った。

百沢が見えてきた。温泉とともにお山参詣の岩木山神社で名高い百沢だ。お山参詣は「サイギサイギドッコイサイギオヤマサハツダイ……」とのかけ声もいさましく津軽衆がご幣をかついで「お山」へ登り山頂の奥宮を参拝する収穫感謝の行事で、旧暦8月1日前後に行なわれるそうだ。そこからまた20分、青々とした津軽平野を走りぬけるとこんどは獄が見えてきた。獄も温泉のある所だ。その付近には若い人達がキャンプしていた。獄を過ぎるとまた平野ばかりだ。しばらく行くと赤い屋根の近代的な建物が見えてきた。英語でTOLL、GATEと書いてあった。英語の時間に習ったとおりに乗すと、通行税徴収所つまりそこから先は有料道路ということだった。そこから8合目の駐車場まであと30分だ。普通の道路ならなんでもないが、最大勾配10%、カーブが69カ所の道路、それにちやうど有料道路に入った時から雲がかかってきて視界は5mぐらいだった

作 文

暗れた日なら津軽平野はもちろん北海道も見えるのにといいながら雲の動くのを見ていた30分はとてもながかった。やっと着いた駐車場は曇でも何も見えなかった。

頂上を見上げて灰色の雲があるだけだ。ちょうど昼近くだったので何か食べることにした。まわりを見るとすぐ近くに古いバスが三台とまっていた。一台は待合所、もう一台は売店、最後の一台は食堂と書いてあった。私達は食堂と書いてあるバスに乗った。そして名物の津軽そばを食べた。そのバスからおりて頂上まで登ろうかなと思った。でもズツクをはいていなかったのでやめた。曇っていても見えなかったので十時のバスで下山した。

初めて岩木山に登ったのに私は岩木山が大好きになった、青森県で一番高く津軽富士といわれる岩木山、こんどは標高一、六二五mの岩木山を自分の足で征服したい。

水 泳

三年 高 谷 きよい

私の学校にプールができ、私も毎日のように習っています。

私は今まで一度も泳いだことがない。だから、水に浮くのかも、わからない。プール開きが一日にあった。ほんとは二十八日なのだったけど、延びたのである。

一日の日、初泳ぎがあつて、とてもじょうずに泳いでいる。私もあんなに泳げたらなあと思う。でも今まで海にもあんなまり、いかなかった。とうぜん、泳いだこともなかったからだ。スイスイと水を

きって泳いでいる姿は、とても力強く感じられた。

早くじょうずになり、泳げるようにしたいと思い、友だちと、一日も休まないで来ることに決めた。一回目クラス全員で、プールにはいった。とても水をつめたい日で、こんなにつめたかったら、これから先どうするのだらう。かぜでもひいたらどうしようか。もう泳ぐことができなくなるのではないか。そんなことを考えながら、次の日、友と一緒に泳ぎにいった。

最初は浮くことから始めた。まず顔を、水の中に入れることだったが、なかなかこわくて、中に入れられなかった。だから浮くことはできなかった。残念だった、でも水に入るのがこわくてしょうがない。

「勇気を出すことだ。」と先生に言われ、そうかと思って、入れようとするが、全くできずじまいに一日が終わる。家に帰り、洗面器に水をいっぱい入れて顔をつける練習をした。また、もぐっていても、息が続かず顔を出してしまうのだった。

こうして、ようやく水にもなれ、浮くことができるようになり、泳ぎをならう。こんどは、犬かきをおそわった。これまた、生まれて初めてのころみ、手を動かすと、足が動いていず、足に気を取られていると、手のほうがさっぱり。そのうちに息が続かず、沈んでしまう。

そうしているうちにみんなはクロールをならいだした。犬かきも満足に出来ない。それなのにクロールなんて、むずかしい。でもやってみた。一かきが二かきするくらいで、やめてしまう。息つきがうまいかないのである。こんなだから、何メートルも泳ぐったら

そうとう練習を重ねなければできないだろう。私はまだたった二・三メートルしか進まないのだ。

早く泳ぎたいのはやまやまだが、じっくり研究して、一番よい泳ぎ方、てき当に泳ぐよりいいと思い、あせらないことにした。だから当分、気分よく泳ぐことはできないだろう。それでもいい、楽しく泳いでいるのもいい。なにも競技に出るわけでもない。

でも生まれて初めて、水に浮いた感じはなんとも言えない、うれしい気持ちだった。

大舟海岸での夜釣り

三年 大沢 照雄

最近釣り人口がふえ出したと言っているが、僕もその中の一人かもしれない。

G組にも釣りの好きな人がたくさん居ると思う。

この中学校時代最後の夏休みを利用して夜釣りを前から父と計画していた。僕の父も釣り好きで四〇五年前からやっている小学校時代から父に連れられて何回か行ったことがある。しかし、夜釣りはこれで二回目だ。父の港祭りの休みと僕の夏休みを利用した計画だった。港祭りの真最中ちょうど花火大会の行なわれる日の午後、函パスのセンターを立った。なにも港祭りの最中出かけることもないのと思うが父の休みを利用して出かけなければならないからしかたがない。

パスは、大沼を回って大舟へ行った。大沼には駒ヶ岳登山者など

がいた。パスの中には僕たちみたいに休みを利用してキャンプする二十歳くらいの若い人たちがのっていた。彼らは、今流行の言葉などを使ってさわいいていた。大人でも今、流行の言葉を使って楽しんでいるのには嘆いた。二時間三十分くらいで目的地到着、大舟は、普通の漁港よりやや小さめであるが、今工事中で先端の方を十メートルばかり延長するらしい。

その日は、風はなく大変良かったけれど波のうねりが非常に強かった。というのは、台風が接近しているらしいということだ。さおを投げて一時間十センチくらいの魚が五〇六匹ついた。

しかし、この築港は、ひっかかる物があるらしくひんばんにひっかかる。どうやらコンブの根にひっかかるらしい。というわけで今度は、築港の内側に投げてみる、どうやら心配なさそうだ。午後六時ころになるとだんだんうす暗くなり始めた。ところが釣った魚を網に入れていくときに波が来て僕のさおを持っていつてしまった。あわてて走ったものの波の力というものは強くどうしようもなかった。竹ざおなら浮くけれど僕のさおは、最近売り出した特殊なやつで沈む一方。

いくら糸にひっかけようと思ってどこにさおがあるのかわからずあきらめたが、父から買ってもらい使いなれていたので残念／＼午後十時頃になると急にさむくなる。一応予想して着ているのでいく分寒いと感じるだけでまず安心。それでも近くの漁師のおじさんが「寒くなったらうちへきてとまって行きなさい。」と言ったが、わざわざ夜釣りに来ているので行くわけにはいかない。

朝方になると、電灯が美しく光っていたのがほんやりしてくる。

作 文

霧がかかっているのだった。電池で照らしでも余り遠くへとかない。それから太陽が登るのを楽しみにまっていたのだがあいにく雲が多いので見られない。

ただちょっと雲の端がだいたい色に染まっている程度。

午後六時頃満潮だから魚が近海へ来るといのでぼつぼつ魚が釣れ出した。近くへ投げて小さい魚がエサをつついていているのがよくわかる。

その日、大体大きいと思われるものとして二匹程度それでもまあ全体で十数匹釣れた。めずらしい魚としてクハモクを父が釣り上げた。その魚は、夏よく釣れるという、ヘビのような長い魚である。

午前八時頃になると潜水夫たちがやって来て釣られなくなったので、すぐのバスで函館へ向かった。途中朝方曇りがちだったが暗れ上がりがん太陽がかがやき出した。

昨日下車しキャンプしていた若い人達が、窓から見えた。黄色のテントがいくつか並んでいてそのそばになんかかたまって話をしているのが見えた。

僕の父はキャンプはよくないと言うけれど、一回こういう海岸でして見たいと思う。今回は、釣りざおを流したのは残念だったけれど残り少ない休みを楽しく過ごし、うれしかった。

朝 だ

三年 高江 加寿子

時計が五時を打った。

起きようか、それともこのまま寝ていようか、頭の中で、一生懸命に決めている。何分くらいふとんの中で考えたか。結局、良心に従うことにした。計画実行。

ふとんを上げ、カーテンを開いた。天気の良い日なら、もう、まぶしくらしいの朝日がさし込んでくるのだが、ちょっと心配になってきた。すぐ、私は台所に向かった。少しでも眠気をさますためである。「ギギー。」とドアがにぶい音をたてる。

みんなが起きないようにとぬき足、さし足、まるでどろぼうのように台所に向かった。母はもう起きていたが、父は気持ち良さそうに寝ている。弟の寝そろうの悪いこと。

私のことを考えると人のことなど言っではいけないが……。弟の投げ飛ばしたふとんをかけたなりながら台所に来た。冷たい水で顔を洗ったら、とってもすがすがしい気持ちになった。なぜ、あの時あんなに迷ったのか、おかしくさえ思えた。

昼間ならどうも書けない写生をしよう、と、写生道具を持って外へ出た。快晴ではなかったけれど、雲の間から太陽が顔を出して、庭の草花や木々に「大きくなれ、大きくなれ。」と言って、光を注いでいるみたいだった。

やはり、早朝なので人通りは少ない。キャンプにでも出かけるような荷物を背負った人達が通ったくらいです。家々の窓には、カーテンがかかっており、あたりは静まりかえっていた。なんだか自分が世の中の先頭を進んでいるように思えて、誇らしかった。遠くの山には、かすみでもかかっているのか、うっすらとしか見えない。どこからともなく、「コケコッコー。」とにわとりが時を伝えた。

その時、朝だという実感と、にわどりの鳴き声を始めて聞いたように感ぜられた。頭の上のほうから、すずめ達が「おはよう。」とも言いだげに「チュン、チュン。」と、さえずっていた。「ほんとうに朝っていいな。」と、しみじみ思えてならなかった。

構図を決めて、色をつけた始めた。スースーと思うように書けるように、気持ち良かった。「コッソ、コッソ。」何の音かとふり向くと、どこかのおじいさんでしょう、散歩にでも出て来たのか、首巻をして、ステッキをコンクリートの歩道にたたきつけるようにしながら、歩いて来た。遠くの山々も、時間がたつにつれて、かすみがとれて、山々がくっきりと見え始めた。

工事中の建設現場にもいつの間にか作業人が来て仕事を始めていた。「なんだか、人・車ともに多くなり出したな」と思っていたら、「カチャン・カチャン。」ビンのふれあう音がした。「牛乳やさんだ。」いや、牛乳配達のアルバイト生だった。

みんな中学生や高校生のように、えらいな！と思うと同じにわったらどうするんだろう、という心配が起きた。それにしてもえらい。こんなに朝早くから、みんな寝ている間に、精一杯ペダルを踏んで。「カチャン・カチャン」という音をたてて、通り去っていった。

私が水を取り変えに家にもどると、みんなも、もう起きていた。弟だけです、寝ているのは。その弟も、話し声がうるさかったのか、ねぼけた顔をして起き出して来た。ふたたび外へ出た時、私は、子供達の大声にびっくりした。肩からハンコを押したカードをさげて、友達を呼んでいる。ラジオ体操に行くのでしょうか。

このころは縁がなくなつて来たが、私として小学生のときは、まじめにほとんど毎日出席したのでした。そのうちに画用紙を持って、弟が来た。「来たな。」せっかくのこの写真場も弟が来たらず領されるのは目に見えていたからです。案の定、弟はそこをどけてくれと言ひ出した。でもどうしたことか今日は暴力で来ません。

私も、簡単にゆずった。これが普通なのでしょうが、我が家では必ずと言って言ひほど、ここで一もめ起きるのですが。父母が出て来た。

父の出勤の時間なのだろう、父は会社が遠いためもあって、六時四五分には家を出なくてはならない。私はいつもととはちがう、すがすがしい気持ちで父を送った。けさはなんだか、すてきな宝物をもったみたいだ。このまま家に入るのがもったいなく思える。

朝は静かで美しい、又とても貴重だ。このステキな朝を破るごとく、けたたましい音をたてて、バイクが、大地をゆらしながらトラックが走ってゆく。

町の目ざめが始まったのだ。

昭和四十一年八月二十二日

雪

二年 端川 公康

今年もまた雪が降りはじめた。

町も村も雪によって真白くそして美しくかざられる。雪は人々に喜ばれることもあるが、人々ににくまれることもある。それは雪に

作文

よってなだれや車のスリップ、また電線につもった雪によって電線が切れて停電になることもしばしば見られる。東北地方に降る雪は屋根をおしつぶすこともある。

しかし、その雪も害になることばかりとはかぎらない。

山につもった雪は見ているととても美しく、山に登ってみたいと思うことがある。

また、雪はスキーやスケートをする人達にも喜ばれる。小さい子たちは、雪だるまを作ったり、かまくらを作ったりしたのしむ。このように雪は一方で災害をおこし、また一方では、人々に喜ばれるというふしぎな力をもっている。雪を見ていると心の中の暗いかなしみやさびしさを消してほくたちに希望をもたせてくれる。ぼくはスキーをすることが大好きだから雪が降らないとこまってしまう。でも時には雪が降ってもこまることがある。学校に来る時や友だちの家に行くとき、雪や風がいつしよになってぼくの顔をさすようにふきつけてくる。こういう時、どうしたらいいかわからなくなる。先が見えないから車が走ってきたらぶつかってしまうだろう。それでも雪や風をうらまないと、天災をうらむだろう。

「この雪がいつになったら地球上から消え去ってしまうのだろうか。」と考えることがしばしばある。山に雪がふって、町や村には降らなければならないと思うこともある。

窓から見える風景

二年 広田恒夫

私は窓から見える風景がすきだ。

とくに高いところから、函館をみるのがすきだ。なぜかと言うとなにかに函館がぼくの手の中にあるようでとても気持ちがいい。これはあまり関係がないかもしれない。

ぼくはぼくの家の二階から時々外の風景を見る。外には家・橋・道・人・川・山・車などいろいろな物がたくさん見える。単純な風景がいりまじって大きな一つの風景になっている。

新川の水の流れや人々の姿・車の姿・家の姿などがまじって一つの朝・昼などの風景になっていると思う。

山などを見ているといろいろな想像をする。たとえば冬などは山にいつてスキーをするとか、夏は大地に腰をおろして、草木の生のままの臭いやしんせんな空気をじゅう分すって生々とねそべって、鳥や魚などと遊ぶような思いにひたってしまう。水の音が聞こえ、自然の中にぼくが一人きりになっているような想像をしてしまう。家と道の複雑なまじわり、色や光の屈折や、人々の衣服の色とりどりなようす、家々の間にぼつぼつと立って生きている木。

このごろは煤煙のために空の色はこごっていて、太陽の光も輝きがすくなくなりつつあるような、風景などが手にとるようになる。

夜などは、家や木などの姿は見えないが、光などによってしづい家・木・道などの輝きがうすくぼくの目にはいる。

月の光で山のきれいな曲線・木などが、しずい黄の色をして、なにか夢を見ているような気持ちになる。

新川の静かな水の流れや、ぶきみな木のゆれかたなどを見ていると、からだがそくそくしてさむけがしてくる。

今ぼくの、見つめている外の暗い函館の家の中には人々のやすらかなねむりが、家をおしてぼくの目に見えるようなきがしてまらない。

窓から見える風景はぼくの一人でみるたった一つのたのしみであるかもしれない。

函館はいま住宅などの家が立ちならび、自然の風景を見ることはすくなくなくなると思うが家と道路の幾何学模様の風景もすばらしいと思う。

姉妹

二年 和田京子

私には2人の姉がいます。一番上の姉は、性格はおとなしいですが、私にはやはり怖い存在で、背はあまり高くありません。顔は長く目が悪いのが欠点です。でも来年は高校を卒業して、保母としての人生を歩むとハッスルしています。

最近では、新聞やテレビなどで、保母が不足しているときいていますが、保母という職業、なかなかめんどろなものです。受験率3倍というほど、競争率が激しいくらいです。でも姉さんならきっと、はいると思います。根拠はありません、でも信頼しているからそういえると思います。

一年くらい前に、私は何の気もなしにきいたことがあります。「姉さん、保母になりたいんですよ。」と私が言う「やあ、どうして知ってるの。」と顔を染め、はずかしそうにしている姉さんを見て

私は姉さんなら絶対やりとげると思いました。「姉さんはねエー子供が好きだから、それともともかわいそうな子供よ。親も兄弟もだれ一人いないかわいそうな子供達のめんどうが見たいのよ。」とうれしそうな顔をしていたのを、私は今でも記憶しています。でも、姉妹げんかした時、私はついカーツとなって、「姉さんなんか保母なんか、なれるわけないよ。自分の妹でさえめんどうみきれないのに。」と私がからかっていった瞬間、姉さんは、いきなり私のほをぶちました。私はびっくりして、次の瞬間目になみだがあふれて自分では泣くもんか泣くもんかと思いつつ、泣いてしまいました。

母が仲裁に入ったものの、その時の姉さんの真剣に怒った顔を初めて見ました。それ以来私は姉さんの前では、保母のことはあまり言わなくなりました。今考えても、おっかなかったと思っています。やっぱり保母の試験がうかるようにと願っています。

みかん

二年 田島真知子

私は、みかんの出る季節になると、まいにちというほど、おかあさんにみかんを買ってきてもらって食べています。

でもみかんによってあまみのや、すっぱいのや、小さいのや、大きい種類のいろいろとあり、私はあまりすっぱいのや小さいみかんは好きではなく、あまみのや大きいみかんの方が好きです。

だから私は、みかんを食べるときには、大きく皮のうすいみかん

作 文

を選んで食べます。

でも私が、みかんを食べていると、おねえさんがあまりみかんを食べると「顔が黄色くなるよ。」とからかうのです。でも私はそんなことは気にしないで食べています。でもやっぱり気になるので、つぎの日学校へ行き、家庭科の時間先生にお聞きしました。先生もあまりみかんを食べると顔が黄色くなるよと言われたのです。

でも私はどうしてもみかんをあまりみかんを食べると顔が黄色くなるのが納得できません。でも先生はそれについて、くわしく話してくれたので、色素の関係からそうなると言うことが、何んだかわかってくるような気がしました。

それから私はみかんを食べる量をへらしました。でもいままでも食べた量をへらしたら、なんとなく、なさけないような、さびしいような感じがしてなりません。

顔が黄色くなるのは少し困りますが、みかんにはくせがなく、おいしく食べれるから私はみかんが大好きです。

ス キー

二年 崎 野 美根子

スキー、この言葉にはいろいろな思い出がこめられています。六年生の時、初めてスキーを買ってもらい、あまりのうれしさに夜の八時すぎまで滑っていました。

又、スキー遠足での思い出、スキーをして足をけがした事。楽しい思い出や悲しい思い出が次々と浮かんできます。

友達によく「スキーなんてどこがおもしろいの、とても寒いのに。」と言います。

確かに外は寒いですが。でもスキーをしているとかえって下着がべとべとになるくらい汗が出ます。スキーはとても楽しいものでスキーをした事のある人でなければ、そのおもしろさは絶対にわかりません。

又、私の好きな俳優に加山雄三さんがいますが、彼みたいへんスキーが好きで、私が最初に述べたように彼も言っています。

プロスキーヤーに三浦雄一郎さんがいます。私は今、彼を一番尊敬しています。スキーの大会でも、好成績を残し、世界一の冒険男ともいわれています。前日、彼の「富士山直滑降」を見ました。富士山を滑りおるとはだれにも想像がつかないことを彼はやったのです。しかも、それをする前には、何回もいろいろな実験をしたりいろいろな人の意見を聞いたたいへんなものでした。

パラシュートをつかったり、自衛隊でも風洞実験。もしこの富士山の試みで失敗したら彼の命はないでしょう。でも彼はスキーを信じていると言って、決死の冒険にいとみしました。そして成功したのです。滑り終わって彼の顔は満足感でいっぱいでした。スキーとはこんなに良いものかといまさらのように感じさせられました。

私の弟もまた、「へたの横好き」で、将来の夢は三浦さんのようなプロスキーヤーになりたいそうです。

家はみんながスキーが好きで、それをとて理解してくれます。

今年で三年目なのでスキーもだいぶんできているので、私と弟は新しいスキーを買ってと注文しました。両親はちょっとためら

い「しょうがないな、まあ買つてやろう。」と言つてくれました。私は理解のある両親をもつて「しあわせだなあ。」

今年もちょうど、この頃になると「どの山がいいかな。」とスキーへ行く相談が始まります。

今の私はスキーが上手ではありません。ですから五年でも十年でもスキーを愛し、もつともつと上手になり、できれば私もプロスキーヤーになりたいです。でも女なのでちょっと考えさせられます。プロスキーヤーの夢は弟にゆづつて、私は一生スキーを愛し続けます。

夢

二年 吉村陽子

私はときどき夢を見ます。

ある時は毎日のように見て、又ぜんぜん見ない日もあります。私はどうして夢を見るのだろうと考えます。夢を見た時、朝おきてみると気がつくものです。

何かぼんやりしたところと、はっきりしたところがあります。私は今もおぼえています、小さい時に、こんな夢を見たことがあります。

私と私の友達二人がヘビにかまれているのです。友達にはげ道がなくて困っています。そこへ私の母が夕食だからと言つてむかえにきてくれました。私はおっかなくてそこからなかなか助けませんでした。そして気がついてみると私はもうおっかなくてしょうがあります。

ませんでした。この夢は今までもずっとわすれられません。そのほかにもまだまだたくさん夢を見ましたが、わりと最近ですが、月日はたっています、こんな夢を見ました。

私は動物になつてゐるのです、そして友達も皆動物です。

ある日私達は家をつくるためによその家から竹をぬすみます。その家には竹がたくさんありました。私達は竹を口にくわえるのです。そしてだれかが竹をたおしました。ガラガラと音がしてたおれました。そこへその家の主人がおっかない顔をして出てきました。

私達は口に竹をくわえながら急いでにげました。その主人は私達をおっかけてくるのです。私は必死になつてにげますがその主人は早くて私においついてきます。私は、それでも急いで走ります。私はああ、もうつかまる、つかまると思ひながら必死に走つてゐるのです。でも私はそこで目がさめました。気がついてみるとふとんの中で走るかっこうをして足をバタバタさせていました。

私はそれに気がつくとなんだか、おかしくなつてきました。でも私はほんとうに変な夢を見たなあと思ひました。

どうせ見るならもつとすてきな夢を見たいなあと思ひます。たとえば、外国に旅行に行くとか、おとぎの国へ行くとか、王女さまになつたとか、お菓子の国へ行くとか、とにかくすばらしい夢を見たいと思ひます。

人間なら、生まれて来てから一度も夢を見たことのない人はいないでしょう。私は、みんなどんな夢を見るのか、知りたいと思ひます。

私はとってもすてきな夢だったら、毎日見たいなあと思ひます。

作 文

将来への夢

二年 田 畑 乃 里 子

私の将来への夢は、二つあります。一つは現実的で、他の一つは空想的な夢です。ここに書く将来への夢は、現実的な方をとり上げたいと思います。

私の夢はピアノストになることです。ただそれだけではありません。ピアノストになるだけでは、あまりにも平凡すぎるからです。だから私は日本のどこかに、少年少女達だけの音楽学校を建ててみたいのです。これは、私が小さいころからの夢ですが、それを一層強いものにしたのは、外国の少年少女合唱団でした。

私が実際に生の声を聞いたことは、一回だけしかありません。しかし、それが、私の気持ちを一層強いものにしたわけです。その事を実行するためには、毎日毎日の積み重ねが必要なのです。しかし、私は小さい時から、その事を心に決めたのですから、実行していききたいと思います。ただし、それにはよほどの強い信念が必要だと思っています。

しかし、そうは思っていて、時々やったりめんどろになって、やらずじまいになってしまうこともあります。練習をしなれば、と思っても、ついさぼってしまうことも何回もあります。そんなことではいけない／＼と練習を、さぼった後、必ずそう反省するのです。

何でも「専門家になるには、人一倍の苦勞と努力が必要だ。」といわれます。けれども、私は、それでいいのではないかと思います。

小さいころからの夢は、成長するにつれて、だんだん小さくなってくるのです。だから、私はなるべく、大きな夢を持つことを考えました。考えた結果、ピアノスト、となったわけです。ピアノストになって、音楽学校をたてたい。こんなことを言ったら、「そんなこと、実行できるはずがない。」と笑う人もいるだろうと思います。しかし、ほかの人が笑おうと、何と言おうと、私の夢は変わりません。又、私は回りの人の言葉ですぐ、将来の夢を変えることができるような軽い気持ちで決めたのではないわけです。だから、そんな事ぐらいでかんたんに、変えられません。

将来は、絶対ピアノストになりたい／＼今、私は、そのために、毎日の練習をしているわけです。将来の目標に向かって。

弟

二年 坂 本 幸 子

私の弟は、八幡小学校の四年生。いつもうるさい弟だが、この間祖母の家へ一人で行って三日もとまってきた。私はその間じゅうどんなにさみしい思いをしたことだろう。

私は今までこんな思いをしたことは一度もなかった。弟がいるのといないのとこんなにちがうものかと内心自分でもおどろいた。いつでもうるさいから、どっかへ行ってしまうばいいのにと、何度も思ったことがあった。静かにしているのは、プラモデルをつくっているときと、なにか機械をいじっている時だけだ。それに私がわからないことばかり聞く。いいかげんにいやがさして、いつも

けんかになってしまふ。「おねえちゃん、どうしてじしゃくに物がくつつくの。」「どうして体温計は、ふらないときがらないの。」だの、まあまあ、ここにあげたらきりがないほどわからないことばかり聞く。

私は、いつも「知らない。」っていつてばかりだ。おまけに、いつも学校ではすぐきかなくなつて、教室中を駆けまわつて先生にしかられてばかりいるそうだ。

一日にけんかしない日なんて一回かあったらどうか。それに、ものすごい短気なのだ。学校のテストがあるので勉強している時でもおかまいなしに話しかけてくる。ほんとに、私ときたらすぐにつりこまれてしまうのだ。弟は、すぐにだれとでも友達になつてしまいます。だから汽車にのっている時などもそうだ。弟といるとほんとうにたいくつしない。小さい時から少しかわっているなと思つてゐるのだけれど……。

それは、せっかく買つてもらつたおもちゃをこわしてほかのおもちゃの部品とあわせて新しいおもちゃをつくるんだといつて、かなづちでがんがをやつていたけれど、ぜんぜんおもちゃができなくて、こわしたおもちゃの部品がいっぱひっこしするときなんて、ほんとにしまつするのにこまつたものだ。

でも、このごろは少しましなおもちゃつてほどではないけれども作つてゐるようだ。

できあがれば、ねえ、見て／＼見て／＼って大きな声はりあげて私をよんで、見せてくれる。私が英語の本を読むと、まねしてほんとにうるさい。そのくせして、自分で絵を書いていて私がいつてだまっ

て見てゐると、すぐおこつてまたけんかになる。ほんとに自分かつてだ。このごろは、なまいきになつて、「あんたは、おねえさんだから。」という言葉をちよいちよいつかう。その言葉を聞くとむしうに腹がたつが、なんにもいいかえせない。

ほんとに、このごろは、とくにそうだ。

でも、そういうことをいつたりしたらだまつておけない、私が弟のことを思っているかぎりには。もし私にこの弟がなかったら、あのときのようにさびしくなるだろう。せいぜいたいせつにしたい。

私は、このことに気がついてほんとによかつたと思つてゐる。

お正月

二年 小西 剛

北風がビュービュー吹く頃になると、正月も、もう真近にやってくる。付近の家で、今年ももちつきをやるうか、などという声を聞くとなお深く感じる。

僕にとって正月は大変楽しい時だ。というのは、まずたくさん遊ぶということだと思ふ。ふだんは試験に追いまくられて、ゆるくない毎日を送っているが、正月はゆつたりしてよい。これは正月とは限らないが、友人と手製のしょうぎばんでしょうぎをやつて勝ち抜き戦などをやるのも大のたのしみだ。また、お年玉も毎年たくさんたまるので、買いたいと思つてゐたものがかえて念願がかなうのでまたかくべつうれしい。

というように正月は楽しいことのれんぞくである。僕の家では、

作 文

げんかんしめなわなどをかざって、正月の気分を出している。今年には宮参りに行かなかったので、来年は行きたいと思っている。去年しんせきの家で、もちつきをしたので手伝いに行ったのだが、なかなか力が必要で思うようにあやつれなかった。その時は、どうしてよいかとまごついたので、もちが冷えてしまつて、ますます大変はじをかいた。

そのあとちぎつてあんこを入れる。ぼくはあまり手先きが、器用でないのうまいかない。こうして苦勞して、できあがつたもちを食う時が一番うれしい。

また百人一首など覚えて、家の人達とやることもある。ぼくの家の父や母は大變強くて、僕はせいぜい十枚位やるのがせいっぱいである。来年は、全部覚えて、昔のかな文の特色を味わいたいと思っている。

お正月も三日四日過ぎると、また勉強しなければならぬ。遊びをなごり惜しむというのはへんだがそうなるかもしれない。

だからいっぱい遊び、じつくり勉強にとりくまなければならぬと、ひしひしと感じる。

ある日の水泳教室

一年 高江敏夫

「みんなプールの中へ入りなさい。」と先生の声がとどく。

ドブン・ドブンと、元気よくみんながプールへとびこんだ。ぼくも、おそろおそろはいってみる。プールの水はおもったよりあたた

かい。「ドン。」だれかが、ぼくにぶつかってきた。みんなが泳ぎはじめたのだ。「バチャン。」ぼくも水の中へ、からだをなげこむ。水中は、青くすんでいる。ところどころに見える足と、調和してとても美しい。

息が苦しくなつたので、水面へ顔を出した。

「みんな、うまいなあ。」クロール・平泳ぎなどをうまくこなしている。まけてはいられない。「よし、ぼくもやってみよう。」と水中へとびこんだ。

はじめは、クロールをこころみる。しかし、うまくいかない。いきを水中ではくと、鼻がくすぐつたくなる。「ガブツ」と、水をのんだ。「ああ、やっぱりうまくいかないなあ。」

まわりの人は、みな水にのってじょうずに泳いでいる。

「ぼくも、早くうまくなりたいなあ。」頭の中でこんな考えが走つた。

海岸の冒険

一年 布施啓一

ここは、江差の近くにある上ノ国という村だ。ぼくが生まれ、両親もここで生まれ、おじいさんとおばあさんが二人ずつ住んでいる所だ。山が海にせまり、細長く道路にそって村ができてゐる。いとこに、正夫という人がいて、毎日のように海で泳いだ。

ある日、正夫の案内で大淵へ行った。前に山の方を通って行った

事があったが、今度は最初から海を通って行った。

その時は幸いに、ひきしおだったのでわりあい楽だった。みちしおならば海の中を歩かなければならない。歩いていると、大きな岩に出会った。

海面から十メートルほどある。ぼくは、登ってみたくなったので正夫にいつてみた。すると正夫は帰りに登ろうといった。

とちゅうのコースは複雑だ。そして海は急に深くなっている。まっさおな所や緑色の美しい色だ。とちゅうにおそろしい所があった。六十度近くもある。登るのは、そう困難ではないが上に登ってみると目が回るようだ。

何回も同じような所を通してやっと目ざす岩が見えた。この岩は長い間水にけずられて大きな穴があいているのだ。

ぼくたちはこの岩をボカン岩と名づけた、ボカンと穴があいているからだ。登るのは、困難だ、正夫は岩がくずれるから気をつけろといった。その岩の上は神社の門のようなのが立っている。頂上はかなり高度が感じられる、だが長くはいられないので、帰りをいそいだ。

とちゅうは岩になれたので楽だったが、さっきの難所はやはりおそろしかった。

下りは足もとが見えなく、八十度ほどもある所はとくにあぶなかった。やっと、さっきの所についた。この岩はとてもゴリラとにている。西側から見ると顔も形がとれている。

西は九十度以上の坂だ、南は八十度、東は五十度、北は四十五度ほどの坂だ。

初めに東から登ったが、石がとても、くすれやすく危険なので、おりて北から登り頂上に立った。

登るのは割合かんたんだった。まもなくおりて家へ帰った。そして、啓一のK、正夫のM、ゴリラのGをとってこの岩を、KMGと名づけた。

ことしの夏のことである。

弟

一年 村松 玲子

ねっちゃんに鉛筆三本貸し

ねっちゃんに二十円貸し

わたしが帰って来ると、壁にこんなはりがみがあった。

わたしはすぐ弟だなとわかった。第六感というやつだ。弟は、まだ五年生なのにとにかくがめつ。びっくりするほどだ。自分がほしいプラモデルを買うのに、人にお金を出させる。

わたしがきのう鉛筆とお金を借りたことをわすれないように、こんなことをしたのだ。「こんなのはらなくたって、ちゃんと借りたことを覚えていますよ。」というと、

「ねっちゃん、ぼくが鉛筆かえしてといっても、なかなか、かえしてくれないから、よく目につく所にはっておくんだ。」と言う。まったく手におえない弟だ。

また、わたしと弟はよくけんかする。テレビのチャネル争い。つ

作 文

まらないことだ。でも、弟は自分の好きなマンガや、戦争ものばかり見て、ドラマなどを見させてくれない。「自分かつてなことをしてこのあいだ、ひろし見たからいいんでしよう。」と言うと、

「だめ。きょうはゼロ戦と航空母艦との決戦なんだから。」と言う。まったくかつてな弟だ。こんなことで結局けんかになり、とうとうしまいに、テレビを切られてしまう。

あとで思い返してみると、あのとき弟にチャンネルをゆずってあげればよかったと思う。けんかしなくてもよかったし、テレビを切られることもなかった。それにわたしも、まんざらマンガがきらいというわけでもないからだ。弟が、わからない問題などをたまに聞きに来るとわかるものだけ納得のいくまで説明してやる。そんなとき弟は「ねっちゃん、ちょっといいつけ。」などと言う。

そう言われて姉としてちょっといい気持ちになる。しかし答がくい違った場合は、またひとさうどうもちあがる。「ちがう、ちがうここはこうだって……。」「だって、みんなはこうだっていったもの。」正解は、こうなのにはんとうに強情ばりな弟。

でもいいところもある。どしや降りの日に学校へかさを届けてくれたのはいいけれど、自分は半分ぬれて帰ったり、またかぜをひいたときは、病院へ薬をもらいに行ってくれたりもする。いつもは、けんか相手の弟だが、姉弟っていいものだと思う。

「少年の日の思い出」を読んで

— わたしだったたら —

一年 大 滝 真 澄

わたしが、エーミールだったたら、あのときどうしただろう。エー

ミールと同じように、彼をけいべつしただろうか。それとも、彼の母のように、やさしく黙って「なんともないよ。ぼくだって、へやにかぎをかけないままで出ていったんだもの。同罪だよ。」というだろうか。わたしは、彼の母のようにいいたい。そして、彼がちょうをくれるといったら、すなおにうけとりたい。

でも、できるだろうか、わたしは短気だ。それに、楓蚕蛾は、とてもめずらしく、美しい。まるで、わたしがとてもだいいじにしている人形のようなだ。その人形をぬすまれ、おまけにばらばらにされたらどうしただろう。もし、相手がとても反省し、このままでは悪いから、自分のとても大事にしているものをくれるといっても、わたしは、ゆるさないだろう。こう考えてみると、エーミールの気持ちもわからないこともない。でも、人をけいべつするのはよくないと思う。わたしだったたら、おこるときは、エーミールよりはげしく強く、おこると思う。しかし、そのあとで人をけいべつし、にくみ、ののしりたくはない。わたしは、キリストを信じ、聖書を説いたことがあった。そこで、こんなことは知っている。『人をにくまず罪をにくめ。』わたしは、このことが好きだ。だからかもしれないが、わたしは、あとになってからも、相手に、いやな思いをさせたくないと思っている。それに、そういう、なにか、いやなけいべつが心のどこかにあったとしたら、自分自身が、とても傷つくような気がする。

話は変わるが、わたしが彼だったたら、あのときどうしただろう。前からとてもほしかった楓蚕蛾、それを見に行った。途中、だれもいなかった。ドアのかぎもかかっていなかった。楓蚕蛾は、すぐ、

作 文

近くの展翅板にあった。人は、だれもない。あの、はん点は、紙の下にあった。見たい。紙をとる。美しい。とても、美しい。そのとき自分のものにしたい、そういう心がおこった。手のひらにのせる。とてもうれし。そのとき、大きな満足感のほか、なにも感じなかった。ちょうを右手に隠し、かいだんをおりたそのとき、下から、人のくるけはいがした。その瞬間、彼の良心は、目ざめた。わたしは、思う。だれにだって悪い心はある。それと同じに、良い心だってある。ただ、彼は、その良心の目ざめるときが、少しおそかったのだ。ただそれだけのことでないだろうか。それに、彼は蠶蚕織をもとおりしてかえそうと、努力したではないか。

わたしが、彼だったら、あのときぬすみをしたかもしれない。そして、母が「エミールのところに行かなければなりません。」といつても、行かなかつたろうと思う。わたしには、それだけの勇氣がないのだ。

彼は、あのとき、エミールのところへ行つた。そして、エミールにけいべつされてもしかたがないと思ひ、自分の家へ帰つてきた。彼は、責任感の強い少年だつたのだらう。自分の大事にしてゐるちょうを一つ一つ指でこなごなに押しつぶしたという彼に、大きな心の痛手を感じさせられた。でも、わたしには、そんなことがでさるだらうか。

「少年の日の思い出」を読んで、わたしはこんなことを考えさせられた。責任感、どのくらい必要なのかということを――

『ヘルマン・ヘッセ「少年の日の思い出」』

冬休みのある一日

一年 斎藤 登

一月×日。天気晴れ。柱時計が九時を少しまわつたころ、ぼくの目の前は、深い夢の世界から、だんだんいやな現実の世界に変わつてきたところだつた。ぼくはこの時ほど、いやなものはない。何か大事なものを失つたようなむなし氣持ちになるのである。

ぼくの朝の時間が、サツと齒をみがいてサツと顔を洗つて、サツと朝食をいただくまでに、ものの十分もかからないというのだからちょっとしたものである。

さて、サツと朝食をいただいた後、勉強にかかるわけだが、この勉強にかかるまでの時間が、これ又すこくかかる。今日はマア、三十分くらいですんだ。ノートを出して、教科書を開いて鉛筆をけずつて、やる氣のするまで、机の前にだまつてすわつていて、やる氣が出てきたら、さあ勉強開始となるわけである。弟たちは、外で遊び……いや、けんかの真つさい中で、母は、いそがしい、いそがしいといひながら、家の中をドタドタと歩き回つてゐる。ただ、ひたすらに一生けんめい勉強をしているのは、ぼく一人だけである。普通の勉強なら、ばかばかしくて弟たちと遊び……いや、けんかをしていた方がずつとましなのだが、今やつてゐる勉強は、そういうわけにいかない。勉強といつても、冬休み中の宿題なのだから。この宿題のおかげで、冬休み前に計画した勉強がちつともでなくなつてしまつた。おまけに遊ぶひまも、ほとんどなくなつた。全くこの宿題というヤツは、罪なものである。

作 文

兄はクラブの練習とかで、学校に行ったので、そのすきに、ぼくはラジオをかけて勉強を始めた。何しろ兄のいる間は、ラジオと自分は一心同体だというような顔をして、ラジオにかじりついて絶対離れないのである。だから、こんな時にラジオを聞いていないと、あとで取り上げられるおそれがあるのだ。ラジオなんてかけると、いつでも音楽番組をやっているの、ぼくにとっては、好都合だし。そんなことをしていると、アツというまに昼食の時間になってしまった。時間なんてものは、授業時間だけスローになっちゃって自分の家での勉強時間になると、急に速く進んでしまう。

つまり、彼はエゴイストなんである。が、そんなことはどうでもいい。とにかく昼食をいただいた。一時ころ、ぼくは何もする気がしないで、昼寝をしようとした。だが、家のすぐ外で、弟たちのけんかをしている声が聞こえてくると、寝ようにも、うるさくて寝ることもできなかった。ぼくは、まどを開けて「うるさいぞつ。勉強ができないじゃないか」と言ってやった。すると弟たちは、飼いなされた猫のように、シンとなって遊び始めた。

それからぼくは、一時間くらい寝てやろうと思ったのだが、どうしたことか、目をさました時は、三時間以上もたっていたのである。あわてて時計を見たら、もう四時を過ぎてしまったところだった。近ごろにない、大失敗である。

ぼくは、又、勉強を始めた。昼寝をして頭のつかれをときほぐしたので、おもしろいほどはかどる。だが、ただ一つ、勉強のさまたげになるものがあった。それは、いうまでもなく弟たちのけんかである。ぼくは「うるさい、勉強ができないじゃないか」と、どなりつけてやった。ところが、弟たちは、さっきの態度とは、ガラリ

と一八〇度回転して、もうその手はくわないというような顔つきをして見せた。弟たちは、完全にぼくを唾べつしていたのだ。今度はぼくが猫になる番だった。おとなしく勉強を始めた。

六時。夕食の仕たくがもうできあがったところだった。すると、今までけんかをしていた弟たちは、先を争うように部屋にはいつてきて、おぜんの前にすわった。全くよくも一日中けんかばかりしていてあきないものだと思ったが、弟たちにとっては、それが趣味であり、遊びであり、スポーツで、けっこう楽しんでるのだ。ぼくは急に、弟たちがうらやましくなった。一日中外へも出ないで、宿題をやっている自分と比べると、自分が情けなくなってきたのである。学校の先生が宿題を出しすぎるせいも少しはあるが、自分の計画性の足りなさが身にしみて感じられた。

ちょうどそんな時、クラブの練習で学校に行っていた兄が帰ってきた。さっそくラジオのあけわたしをして、夕食を食べ、簡単な休けいと運動をした。

父が帰ってきたのは、九時ごろだった。どういうわけか、きまつて父が帰ってくると、とたんに、家の中がうるさくなるのである。おそらく弟たちが父といっしょになってけんかをしているのだから。

とにかく、こんなふうに過ぎてきた今日一日。冬休みにはいつてから、いつもこの調子である。こんな歯ごたえのない生活はきらいだ。これなら、学校に行っていた時の方がずっとましだ。ああ、早くこいこい、三学期。

詩

道



三年 高江 加寿子

雪が降り
身を切られるように寒い夜も
私は歩く
歩かなければならない
だれの道でもない
私だけの一筋の道を
春が来るまで続く道を
雪原には
消されかけた私の足跡だけが
こんな雪にこんな寒さに負けるものか
とでも言いたげに残っている
いつまでも消されないように
一歩一歩踏みしめて
また歩く
見えて来た灯へ続く
私だけの道を

二人の私

三年 田原 久美子

「あなたは誤解している……」
そうすると私の心は二人の私が支配する
ひとりの私は
私は違うのよ／そう思っていないのよ
そう考えてなんかいないのよ
違うよ、わかって／信じて／
お願い／信じて／
もうひとりの私は
でも信じてくれないあなた
いいの、いつかきつとわかってくれるでしょう
今、あなたが信じてくれないなら私が自分で信じる
自分がしっかりさえてしりや
自分がほんとうに信じてさえいれば……
いつか、いつかきつと今の私の気持ちか
わかってくれるでしょう
たとえ今わかってくれなくても……
だからいいの
ひとりの私は呼びわめき疲れてしまう
やがてもうひとりの私が静かにそっと
私の心を支配してしまう
そして言う 「いいの信じてくれないなら信じて
もらえないなら……いいのよ」

ふぶきの夜のまぼろし

三年 園木 儀一

ふぶきの夜私は外に立っていた
だまって立っていた

雪は私をうずめようと

あとからあとからふって来た

風は私を感動させるかのように

ヒューヒュー鳴っていた

私はだまって立っていた

身体が凍り、気が遠くなりそうだった

ふとみると、雪の花が一面にさいていた

真っ白い雪の花が

花びらが何枚も飛んで来た

花びらの中から一寸しの光が

神のようにてっていた

ふと現実にもどると

自動車のライトがてっていた

雪のふる夜

三年 小田野 隆夫

雪のふる静かな夜

僕は思い出す

病院でねていた母を

母は早く雪がふるといいね

といった時のことを

死ぬ前に

一度でいいから

今夜みたい

雪のふる静かな夜を

母にみせてやりたかった。



中学校二題

一年

“校歌”

木野下 恵子

『東の古城いできて……』

このことばではじまった校歌。

メロディーが小学校の時とちがう。

とてもむずかしそうだ、

歌えるだろうか。

小さな声で口ずさむ。

歌えた／＼

歌えた／＼

私もやっと中学生になったのだ。

“対面式”

鈴木潤一

ひろびろとした体育館、

その中で

たくましいおんどのような上級生と

ひよこのようにかわいぼくらはむかいあう。

そして、ぼくらは

たくましく力強いあいさつに目をひかれ、心をうばわれる。

ぼくもいつかあのようになるのだろうか、

ふっと、そんな考えが頭をはしった。が、

ぼくらの代表もそれにおとらないようにたちむかった。

誠実、協調、真理探求、

いいことばだ。

三年間、このことばをわすれずに学んでいきたい。

ひよこがおんどりになるように。

教室寸景

一年八幡純一

“黒板”

教室を見まわしてみよう
緑板（黒板）——これは緑の森林だ
中の白いチョークは冬の雪
黒板消しはラッセル車
白い雪をかき消して進んでゆく

“音”

ゴト、ゴト
なんの音だろう？
ガサ、ガサ
なんの音だろう？
きつと、紙がうごいている
だれかが机をうごかしている
——いろいろな音が聞こえるなあ

人間

一年石岡 貢

人間——このように二字でだけでも簡単に書くことができる。
しかし、人間——
この字にかくされた意味は、永遠に続く広大な平地のようだ、

そして、無気味だ。

町へ出る。人間がいる。

そこにいる。

あそこにも、ここにも——

もし、人間がいなかったらどうだろう。

寂しい、不安だ。

そして、地球上は神秘の世界となるだろう。

人間は、ひとりひとり

いろいろな個性をもっている。

あの人は泣きやすい、

その人は笑いじょうこ、

この人はおこりやすい。

いろいろな個性をもった人間が

地球上に、たくさん、たくさんいる。

学校の中、教室の中、

家の中。海底にも、地球をはなれた宇宙にも。

やがて、地球は人間でいっぱいになるだろうか。

滅びるかもしれない。

ずっと生存し続けるかもしれない。

それは神様だけが知っていることだ。

今日も人間は死んでいく、

今日も人間は誕生した。

くり返し、またくり返される。

現に、ほくも誕生し、いつ死ぬか知れない。

不思議だ、無気味だ。人間とは——

鳥の死

一年 山崎 千尋

雪の降る時

一年 大平 朋子

寒い、寒い夜、

あの鳥は、

静かに、そして

寂しく死んでいった。

どんなに苦しんで

死んだことだろう。

どんなに私をうらんで

死んだことだろう。

私がぬきとってそばに置いた

ルンペンストーブのガスで

あの鳥はちっ息死した。

私はずぼらだったために。

私がストーブを外に出せば

死ななくてすんだのに。

「千尋が、

千尋がころした！」

「千尋がころした！」

母のことはが

頭にやきついて

はなれなかった。――

雪の降る時、思い出す。

幼なかった日を、

雪だらけになって遊んだ日々を。

あの時から少ししかたっていないのに

私は中学生。

ふと昔へ帰りたくなる。

雪の降る時、なつかしむ。

幼なかった友達顔を、

雪だらけになったあの顔を。

あの時から少ししかたっていないのに

友達ももう中学生。

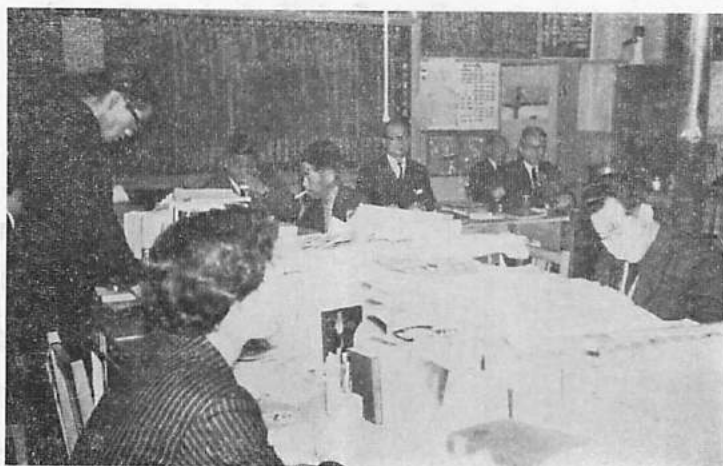
――人間はなんて成長が早いのだろう。

手をつないで通った幼稚園のころが

ついきのうのようだ。

雪の降る時、ふとこんなことを考えた。

職員ずい筆



道徳研究会雑感

坂 牧 達 夫

十月の五・六・七と三日間北海道の道徳教育研究集会の中学校部会が本校を会場としてもたれた。その第一日は特に五稜中学校の道徳教育の実践と研究を、参加の先生方に公開した。1DE、2EF、3ACの諸君は「ああ、あの時か」とうなずかれるだろうが、その大会に参加された各先生方は長万部以南、すなわち道南の各中学校から一ないし二名の特に道徳教育推進にあたっていたらしい。先生方で、それぞれ深い研究を積んでいられるので、私たちはこの機会に本校の道徳教育のすすめ方についていろいろ御意見を戴き、よりよい実践に役立てようと考えて授業をお見せし、本校の道徳教育についての計画や、実践についての討議をもった。

人間としてより正しい生き方を追求し、社会人としてのよりよい資質を身につけていくことをねらう道徳は、現代人に欠けている最も大切な正しい人間性の復活に大きな役割を果たすものであるし、この事について人間である私たち教師と君たち生徒が一つになって真剣に追求していきたいと思っている。

当日参加した先生方は学校環境の美しさに羨望し（道南の殆どの学校からの参加なので、恵まれない僻地校が多かった）そこで学ぶ諸君らの礼儀正しい素直さをほめたえた。廊下にゴミ一つなかった校内を歩いて諸君の生活態度を立派だと想像した。確かに五稜中の生徒のよい面が当日の先生方の目にうつったのだらう。然し、私たち教師も諸君らもそれらの言葉をきいて、決して満足心はもたないだらうし、むしろ心の中では赤面して、そういう人間に、そういう学

校にならねばと思ったことだろう。特にある先生がふともらした「この学校の生徒さんは皆おとなしいですね」という言葉は、君たちの中に失われかけているある大切なものを指摘しているとは思わな

いか。ともあれ、この研究集会を通して教えられたこと、学び得たことを今後の生活に生かしていきたい。

「？」

主 藤 節 子

私は数ある「にが手」の中で最もにが手なものは「文章を書く」ということです。この文章を書くにあたっては、宿題を気にしながら手をつけていない子供のよう

に苦痛を感じたしです。が、冬休みになって、なつかしい旧友からのお便りを見て、妙に学生時代がなつかしく思われ、学生時代の思い出の一つを書いてみることにしました。思い出と言えは、随間的にすこくおもしろく、キャーキャーさわ

いだこと、たとえば、何かゲームをやる、娯楽映画をみる、そんなおもしろかったことはあまり思い出に残っていないもので、その瞬間にはそんなに楽しいというわけではないが、自分自身、努力して継続的に行なったこと、そんなことはあとから考えると深い思い出となつて心に残るものですね。といつても、底抜けにさわぐといふことも大切なこととは思いますが……。

その思い出の一つである「読書会」について書いてみることにします。私は人のお話を聞く、人に話をする、つまり「話し合い」が

大好きでした。もちろん今でも大好きですが……。

私は大学四年間を東京郊外にあるアパートの学生寮ですごしました。そこには学生が十六、七名いて、北は北海道から、南は九州まで、また、それぞれ異なった環境に育った学生達でした。ですから「生きがい」の感じ方もそれぞれが違っていましたが、読書会に参加した学生達の共通点と言えは「真理とは何か」「自分達はいかに生きるべきか」等、人生に対して積極的とてもと言うのでしょ

うか、そんな仲間のよう

に私は感じられました。ただし、私は例外でしたが……。人数は普通五、六名程度で、少ない時は二人だけということもあり

ました。やり方は、その本一冊からだけでは不可能な面もありますが、一般にまず各自が定められた期間に定められた本を読み、その本の問題点を提出しながら作者の意図を私たちなりに理解し、作者がその考えにいたった経過を検討します。そのあと作者に対する各個人の考えをのべたり、各個人に対して、自分達の考えを明らかにします。そして、私たちはいったいどうすべきなのだろうか

と話を発展させていくのです。その本の内容によつては作者が自分達の考えをまとめた感動的な文章をもつて代表してくれたかのように、全面的あるいは部分的に肯定というより、感動、感激することもありました。ときにはいつのまにか本からはなれて、その項の当面の問題へと話題が転ずることもたまありました。それらの本の内容については、思想史・人生論・哲学的要素の本・教育に関する本、あるいは文学とバラエティーに富んでいて、今考えると、その本の中には系統性をもった方がよかつたと反省されます。

この話し合いに参加するにあたっては、まず、自由に話しあえる雰囲気

でなければ、有意義な討論はできないわけで、そのためには

お互いに相手の立場、考えを尊重するという事です。が、自分の考えを述べないで貝のように口をつぐんで、その話し合いのお客様になっていたのでは、自分自身楽しくないし、又、自分のためにならないということです。

したがって各自が主体的に話し合いに参加していて、しかも相手の考えを尊重する、そんなルールは無言のうちに守られていたようです。そんな中で友人の考えを理解し、友人への理解が深まる。

又、一人よがりのおろかな自分の考えにもわずかながら客観性がでてくるように思われました。又、たとえ理解できなくともお互いに理解しようとする姿勢が又、新しい何かを生みだしていったように思われます。この話し合いを楽しく有意義な、そして活発なものにするためには私のようなまけ者でも少しは勉強もしようです。

ここで問題になるのは人間は口先だけなら何とも言えるのではないか、行動がともなわなければ意味がないではないかということだと思います。私たちは一つ屋根の下の生活、あるいは四年間クラスが変わらないクラスメートであれば、理論と実行とを通したものをのおの自由で批判したり、自分自身を批判したりしました。

この読書会を通して、私は「自分自身にきびしく生きる」ことの大切さを改めて認識しました。

人間は人を批判して成長すると言われますが、人を批判しっぱなしで、自分の問題として、もどして考えることができなかったら、それは幼稚園、小学生低学年の成長過程で行なわれるつげ口とあまり変わりません。ある友人が「独裁者」についてどう思うかと言ったのに対して「己に独裁者であれ」と言ったのを覚えていますが、ある時は自分を客観的というか、むしろ皮肉なぐらい自分にきびしい目

を向けて自分自身を反省する、批判する、そんなことが、自分が前進するための一つになるのではないかと考えます。

学生時代は親友からのあたたい、きびしい批判が自由に与えられました。社会にでて自分自身一人で気づいて行かなければならないことが多くなったような気がします。

子供が好きで教師になりましたが、心身ともに成長の大きい中学生と毎日勉強するにつけ、一日の自分自身の向上を「自分にきびしくする」ことによって、たとえ不可能であっても、新年にあたって誓いたいものだと考えています。

「続」交遊抄

竹内 巖太郎

私は物書きではないが、時々には楽しみで、また、よんどころない事情で拙い文章を人の目にさらさなければならぬこともある。

〃五稜〃の五号に発表した交遊抄もほんのページの埋め草のつもりであったが、意外に多くの人に読まれたらしく、好意ある批評のことばもいただいた。私にとって望外の喜びであるが、これも私の力によるものではなく、あそこに登場した賢友の人がらによるものであろう。

交遊抄を繰ることは私にとって楽しいことである。それは思い出を語ることによって、彼と私との過去をなつかしむことにもなり、又、より一層の紐帯によって彼と私が結ばれることにもなるからである。

一部に私を顔の広い男とみるむきもあるらしいが、私自身はそう

は思っていない。私は人とあまり話をするのが得手でないし、又、好きでもない。従って気軽に友だちも生まれない。世間の誰でもが歩むように学校を出てから教職という職業生活につき、その暇々に将棋を指してきただけの三十余年である。そんなに世間の広くなる道理がない。従って私の交遊の範囲もごく限られたものであり、学窓、教職、将棋界以外に交遊の範囲はないと言ってもいい。当然、交遊抄に出てくる人物もこの三者の中から選んでくることになる。学友や、職場の仲間について語っても、その種はつきないし、又、私もぜひ書きたいと思う。四年前、五校に来てから今までのことを語っても、ただちに一篇の物語りができるであろう。

だが、今はそのつもりはない。他日、又、機会があればのことにしよう。

きょうは棋友についても語ろうと思う。それは私にとって一番手がけやすいことであるし、又、心に最も熱いものを流しこんでくれることにもなるのだ。

阿部と二上

人の運命は出会いによって決定すると言われる。私が思いがけず将棋の道に足をふみ入れることになったのも、又、彼がそうになったのも、この出会いという運命の神様の御手によるものとしか思えない。

函館中学（現中部高）というのは、北海道では名門で秀才の入所と言われていた。だが、時にはそうでない分子もまぎれこむこともある。その一人であった私は勉強よりも将棋という熱病にとりつかれている少年であった。教科書の代りに定跡の本をひもどき、机を盤ととり違えての毎日が続いた。

大東亜戦争が敗戦に終わって、日本の歴史の上でも最悪の混乱した時期であり、人々の精神と肉体はすさんでいた。けれども、私にとっては豊かで充実した日々であったと思う。あの手、この手の思案を胸に、終日うむ所がなかった。そして相手が欲しかった。

たまたま同級生の中に二上達也という少年がいた。あまり物を言わない、小柄で、色白の目のパツチリとした美少年であった。家が同じ方向であったので、一緒に帰るようになり、親しくなっていた彼も将棋が好きであった。いつのまにか二人はともだちになり、学校から帰ると、カバンをほうり出して勝敗を争った。

はじめは同じくらいの腕前であったが、日を追うにしたがって、私に歩の悪い戦さになった。今から考えるとお話にならないほど幼稚な将棋だったが、それだけに真剣だった。負けこむことが多くなったが、自分の弱きを認めるほど、まだ精神は発達していない。必死になって研究を続け、秘策を胸に蔵して対戦するのだが、どうしても歯が立たなくなった。私を負かす時の彼は、冷酷そのものに見えた。少年の頭脳では彼の天才ということを理解できず、又、自身の鈍才ということも理解できず、ただ切歯やく腕するのみであった。もうその頃には、到底追いつけないほどの力量を有するまでにいたっていたのである。彼は当時から穏やかな、ひかえめな性格で、人と少しも争う所のない人間であった。めったに自己を主張するということのような所がなく、人の意見を受け容れた。私が長年の交友中、彼から反対された記憶はただ一度しかない。後年、彼が、将棋界最高の榮譽である王将位を獲得した時、祝賀会に出席するため来函したことがある。浅橋まで迎えにいった私が、疲れているだろうから宿屋に行つて休むようにすすめた。その時、彼は白土先生（後述）の位牌の前に報告してからにしたいと拒否したのであった。私

はうかつさを恥じるとともに、彼の眞の面を見たような気がしたのであった。

彼は当時より鋭烈な攻め将棋を得意とした。鋭利なキリでキリキリもみこんでくるような鋭い攻めであった。将棋は性格をあらわすというが、表面は穏やかな人がらのどこにこんな鋭利なものがひそんでいるのか、意外の感にうたれることもあった。

さて、私たちはもつと本格的な修業がしたくなり、そろって白土誠太郎六段（死後七段追贈）のもとに入門した。彼はめきめきと頭角をあらわし、入門後わずか一年で北海道の代表として全国大会に出場し、これが彼の専門棋士入りを促す機会になった。

ちょうどその頃、同じ白土門下に有望な少年棋士が多数おり、その一人に阿部眞郎という変わった名前の少年がいた。二上とは対照的に浅黒い骨格のたくましい男であった。函商のラクビー部員として活躍していたが、スポーツマンらしくはがらからで、将棋も豪放な攻めを得意とした。しかし反面、見落ちも多く、私には彼にも歩が悪かったが、勝つこともあった。

三人は親友になった。阿部の家も私の近所であった。私と二上は阿部の家にも行って遊んだ。彼は一種の万能選手であった。少年野球のチームにも入っていたが、打つては四番、守つては投手、時にはマストもかぶった。「きよひは何本ホームランを打った」などいつも聞かされた。

将棋にあきるとギターを弾いた。難かしい楽譜を何の苦もなく読みこなす彼を、私はいつも驚異の目で見つめたものであった。ラ・タンパルシーターという曲とか、アンドレ・ゼコピアなどというギタリストの名前もこの頃覚えた。クラシックよりも流行歌が私は好きであった。私の所望に応じて、古賀政男名曲集をひもどいて弾い

てくれた。「影を慕いて」「酒は涙かため息か」などというものの哀しい曲は私の心をとらえた。その頃「湯の町エレジー」という曲が全国を風びした。彼はそれが好きで、あきることなくかなでた。私は今でも湯の町エレジーがラジオなどから流れてくると、眞つ先きに彼の顔が浮かんでくるのである。

高校を卒業した私たちは三人三様の道を歩むことになった。二上は自己の天分を生かすべく専門棋士に、阿部は役人として税関に、私は教師になるべく大学に入った。

二上は東京、阿部は小樽（後、旭川、現在稚内）私は函館と住む場所も変わり、毎日顔を合わせることもできなくなった。専門家になった二上は別として、阿部と私は今までのように、なにもかも忘れて、将棋に打ちこむということは難かしくなった。とくに私の場合遅れていた学力をとりもどす必要もあったし、それに自分の棋才にたいする疑問も手伝って、少年の頃のような情熱は消えかかっていった。しかし、将棋の持つ堪え難い魅力は永久に私を将棋から引き離してしまふことはできないのであった。それは阿部にしても同様であったにちがいない。

二上は上京してからその天分をいかに発揮して、数年を経ずして日本の将棋界を代表するスターになった。

阿部も恵まれた棋才をもっていたのであろう。小樽に行つてからメキメキと頭角を現わし、アマチュアとして北海道では屈指の指し手になった。

別に二上の活躍に刺激されたわけではないが、私にとって一時おとろえかけた将棋への興味も年とともに回復し、牛の歩みとはいいながら技量も進んだ。私は三人の中では最も将棋が好きなのである。

毎日顔を合わせていた仲間も、海山遠く離れてしまえば自然と遠のくものであるが、三人の友情の糸はかえって強くなるようであった。

阿部とは夏の全道大会で札幌の定山溪で対面する。私はいつも初回戦で負けてしまうので、常に上位に進出する彼とはなかなか公式戦を戦う機会がない。夜になって温泉に入り、自室にひっこむと練習試合を挑む。一年ぶりにあっても話をするよりは、将棋を指す方が楽しい気がした。「相変わらず寄せが遅いなあ」と冷やかされながら負かされて、口惜しがる日が何年か続いた。

昭和三十九年夏、私は棋運に恵まれて全道将棋選手権の決勝に進出した。相手はくしくも阿部賢郎だった。「公式戦は始めてだなあ」駒を並べながらの彼のことばには、一寸した感傷があった。私も二十年かかってやっとここまで来たという感慨があった。この勝負は彼のボカに恵まれて幸いした。九十三手、意外に短い終局であった。中盤以降難かしい顔をしていた彼も、投了の時には平常のサツパリとした彼にもどり、「負けました。強くなったなあ」との一言とともに投了した。はじめてはめられて私はうれしかった。

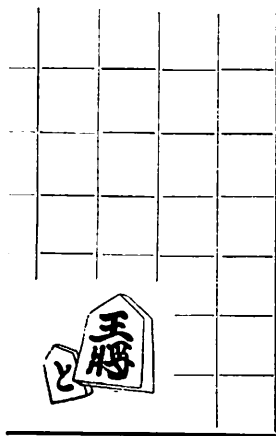
二人は道代表となり、東京の全国大会に出場したが、仲よく一回戦で失格し、二上の所に泊った。三人で顔を合わせたのは十五年ぶりであった。そこには少年の時とちっとも変わらない顔があった。阿部と私が交互に話し、二上はもっぱら聞き役、何年たっても子供の時のくせはあらたまらない。変わったといえ酒が強くなったぐらいのことか……。十五年は昨日のようであった。二上は自分でお茶を入れ、パンにバターをぬってくれた。夜には夜具まで敷いてくれた。

私と阿部は、それをあたりまえのように受けとっていたが、ふんにもぐりこんだ時、熱いものが流れた。

翌日、再会を約して二上宅を辞した。二上と奥さんと二人のこともが手をふった。そこにも十五年があった。

新宿で電車を降りた。高層ビルが林立し、また、あらたな建築工事の音のすさまじい喧騒の町であった。歩道にはおびたらしい群衆が忙しく流れるように歩いていた。

「じゃあ」と私たちは一言いって左右に別れた。私はちょっと見送った。阿部はふりかえりもせず、スタスタと足ばやに人ごみの中に消えていった。



生徒会座談会

思い出の五稜

〓 学校生活を語る 〓

出 席	
司 会	佐々木 敏彦 (会長)
矢 木	洋一 (副会長)
黒 滝	光子 (〃)
保 古	晴男 (書記)
矢 田	啓子 (〃)
金 田	功 (会計)
町	光恵 (〃)
先生	竹内 巖太郎

❑ 卒業を迎えて

司 会 最初にみなさんに卒業を迎えての感想をうかがいたいと思います。まず、矢木君どうですか。

矢 木 三年間が、あまりにも早すぎた感じです。ですから、もう二、三年ぐらいいて、クラブや勉強をやりたい気持ちです。

去年の三年生は、規約などを作ったのですが、僕らは、あまり大きな仕事をしませんでしたので、何かしておきたかった感じです。一、二年の時は無邪気に暮らしてきましたが、三年生になると、高校受験、就職などという問題がでてきて、悩んでいます。

保 古 入学した時は、あと三年あると思いましたが、今になって考えると、三年間って、とても短いと思われれます。

黒 滝 まだ、卒業するという実感がわきません……。

司 会 それでは、入学した当時の思い出を、うかがいたいと思います。

町 三年生がすごく大きく感じられて、圧倒されました。

矢 田 校舎がすばらしいということと、町さんと同じように、三年生には圧倒されました。

金 田 入った時は不安でしたが、三年間楽しく過ごしたと思っています。

竹 内 だれからか、三年というのは、短いという話があったのですが、まあ、短いようで長いのが三年なんですよね。入学した時は、みんな子供、子供しているんですね。ところが三年たって卒業するころには、体も大きくなるし、ひげなんかはやしてね。(爆笑) 女の子も、非常に女らしく美しくなっていく。これはやはり、三年間という月日がけつして短いものではないということを意味しているんですね。五稜という学校で学ぶにたができたことは、みなさんにとって将来の思い出として語る場合、非常に幸福だと思えます。

生徒会役員活動

司会

中学校での思い出というのとはつきないと思いますが、この辺で今年度の生徒会役員としての活動をふり返ってみたいと思います。

矢田

生徒会役員として一年間過ごしてきましたが、役員同志の連絡がゆき届かなかったたので、総務委員会を開いても、全員が集まるということが、少なかったと思います。ですから、来年の役員の人は、全員そろって話し合えるように努力してほしいと思います。

町

精一杯やったと思いますが、もう少し何とかできたような気がします。

黒滝

矢田さんも言ったように連絡のゆき届かなかったことが残念です。何ごとも、早くから計画的にやったらよかったんじゃないでしょうか。

司会

いろいろ反省ができましたが、勉強や運動などをしたためにできなかったという点もあると思います。その運動面ですが、保古君はよくやった方ですか。

保古

運動クラブには入っていませんでしたが、球技大会の時はやりました。総務に顔を出さないで。(笑)

司会

書記としての仕事は完全にできましたか。

保古

クラスの書記の仕事をちょっとやってみて、それから、生徒会の仕事に入ったんですが、ただ記録するばかりではなくて、他校との連絡をとったり、会長の仕事を助けたりしなくてはならなかったたので、たいへんでした。でも、会長がほとんど一人で仕事をしてくれたたので、その点は楽しんで

司会

た。来年の書記の人は、書記局というものを、おおいに利用して活発に働いてほしいと思います。

矢田

今年度から、書記局を設けたわけですが、初めての年の活動はどうでしたか。

司会

会合は、一、二度開いただけですが、ほとんどの人が集まったので、初めての年の活動としては、活発だったと思います。でも、来年からは、もっと書記局を利用してもらいたいです。

矢田

それでは一応成功を取めたわけですね。そうです。

司会

会計のほうは、どうでしたか。

金田

僕自身としては、あまり……。寄付金などを集めた時に計算してもあわなくて、困ったことがありました。

竹内

一般に中学校の生徒会活動はあまり活発ではないようです。なぜかという、高校入試があまりにも激烈なために生徒会役員などしていると、勉強ができないといって敬遠する傾きがあるからです。だから、東京のほうでは、生徒会役員などをやると、内申書に書いて、入試の際の参考にしていうという傾向があるようですね。でも、あなた達は函館なんていうわりにのんびりした地方にいるので、そういう意味では活動が活発だったし、よくやってくれたと思います。

勉強

司会

それでは次に勉強面ではどうでしたか。

黒 滝 勉強はしないで遊ぶ方が一生懸命だったようです。

金 田 僕もあまり勉強はしないで、三年間遊んで過ごしました。

矢 木 やはり遊ぶ方に重点がおかされて、どうも勉強の方は、できませんでした。

町 私も、今考えてみるともう少しやっておけばよかったと思っています。

司 会 だれか、勉強面に重点をおいてやった人はいませんか。

(爆笑)

竹 内 先生は相談室の先生となっていて、全校の生徒の心配事や悩み事の相談にあずかっているんですが、その中には、勉強の方法がわからない、どうしたら勉強ができるか、という質問が三年生に多いわけですね。その点からすると、五歳の三年生は、勉強に熱心だと考えられるんですけど、みなさんの話を聞くと、そうでもないようなんですね。みんな一生懸命やっているんだけれども、かくしているんじゃないかな。

全 員 爆笑

運動

司 会 それでは、勉強の方はおいて、運動のほうは、どうでしたか。

矢 木 三年間バレーをやっていたんですけど、それで、体格も良くなり、協力するという心も、身につけたので、よかったと思います。

黒 滝 運動クラブには、入っていませんでしたけれど、校内の球

技大会の時、選手には選ばれなかったんですが、球拾いとして練習に参加したんです。その時みんなが一つになってよく練習に励んだので協力するということがわかったような気がします。

矢 田 私もバレーボールクラブに三年間加入していましたが、三年生になると、中体連の練習で、夏休みも朝6時から9時までやりました。朝早く起きるのが、とてもつらかったです。(笑)

練習が終わったあとは、みんなで、ラーメンを食べに行ったり、アイスクリームを食べに行き、先生にみつきり、しかられたこともありましたが、今となっては、楽しい思い出の一つです。

司 会 ここにいる生徒会役員の中で、半数は運動クラブに入っていますね。入っていない人で運動クラブをどう思っていますか。

保 古 今、考えると運動クラブはよかったと思います。疲れるまで練習をするわけでしょう。そのあとが、すがすがしいんじゃないのかな。

私も、二年生の時、バレー部に入っていたんです。その時練習がわりときびしくてすごく疲れました。けれど、バレーをやっていると気分がとてよくて、楽しかったです。ずっと入っているとよかったと思います。

金 田 でも、クラブへ入っても練習がきびしくて、やめる人もい

矢 木 るんじゃないかな。

そういう人は、勉強をしても、しようがないと思うよ。スポーツをやる人に、悪いやつはいないっていうからね。

保古

そうだね、スポーツを通していろいろなことが収穫できるからね。

司会

僕も、三年生になって正式にクラブへ入って、体力がずいぶんついているのに気がつきます。それが勉強の面にも一番役立っています。

竹内

運動して、何の役に立ったとか、何のためになったとか、どんなことが身についたとか、ここでずい分言われることだけど、実際に、そういうことをいわれて、自分が考えてみれば、そういう気もするけれど、ほんとうは、わからないと思います。しかし、やはり協調性などは、自然に身についてくるものなんですね。だから、何のためになんて考えないでやっている間に、自然に身についてくる。こういう所が、クラブなどで、大変大事な所ではないかな。

修学旅行

司会

みなさんは、三年生になってから、修学旅行に行ってきたわけですが、その思い出を話して下さい。

黒滝

行く時の、汽車の中で騒ぎ過ぎて、先生におこられたことなどが、なつかしく思い出されます。

司会

汽車の中で、通路に新聞紙をしいて、寝たのですが、どうも眠れないで、朝までトランプなどをして遊びました。それで下車してすぐ、都内見物をしたんですが、眠くて全然印象にないね。(笑)

保古

車内が一番楽しかったですね。それから、今だから話しますが、僕達の泊った部屋に、ルームクーラーがあって、男

金田

予が騒いだら前のふたが落ちてきて……。 (笑) それを直しましたが、また二、三度落ちてきました。

矢木

僕は、後樂園、函館にないものがあった、一番楽しかったのも、雨に降られたので、ちょっと残念です。

矢田

雨のため、ジェットコースターに乗れなかったのが心残りです。でも私は、雨に感謝しました。以前にも何度か、ジェノトコースターに乗ったことがありましたが、二時間ほど待たされてスリルを味わったのがなんと、二、三分でした。今回は私が、以前こわがって乗らなかった乗り物にも乗って満足でした。それに、ほこりもたたなかったから。後樂園と同じに上野の動物園も楽しかったのではないですか。

黒滝

とても広かったわね。函館では見られないめずらしい動物もいたので、楽しく見物しました。

矢木

そうだね。あそこなら、一周するのに二時間以上はかかるんじゃないかな。とにかく、なんでも、スケールが違うからね。

司会

そうですね。やはり、都会ですね。そうである、旅館の中が一番楽しかったように思われますが、どうですか。

黒滝

旅館では、B組とふすま一枚だけへだてていたので、隣りの話し声は、つつぬけでしたし、私達も騒いで、よくおこられました。もうしわけなかったと思っています。

矢田

D組のことを注意しましたが、D組からも「B組は、うるさいよ」なんて注意されましたが、みんな、一つの部屋

に泊るのだが、初めてでしたから、それに女子だけなので、誰にも遠慮がないので、寢床についてからでも騒ぎ、次の朝は、起きられない人がいて、かけぶとんをめくられて起きる人も数人いました。旅館内でのことも楽しかったのですが、おばさんが来たので、外出して夜の銀座などに行き楽しかったです。第一に、旅館の食事を食べなくて、すみましたからね。(笑)

竹内 先生は、三年生では、G組しか教えませんでした。それも三年生の時ではなく、二年生の時に、まあ、矢木君も活発な方だったので、保古君のような失敗もあると思うが、どうだろう。

矢木 ちよっと障子なんかもこわしたりして、(爆笑)車中でもないたずらなどよくやり、先生におこられました。先生にだいぶ迷惑かけた感じですよ。(先生、うなずいて聞いている。)

☒ 友人・人生・受験

司会 みなさんは、三年生として、自覚をもっていると思います。生徒会や学校の行事以外に今年を振り返ってどう思いますか。

黒滝 友だちと、人生のことなどについて話し合ったりしたことが、一番の思い出として残っています。やはり中学校になつてからできる友だちは、小学校の友だちより気が合ふところがあり、なんでも安心して相談できると思います。

保古 そうですね。小学校の時の友だちとは、話す内容も、だんだん現実の話になり、中学生になつたんだなあという感じ

がします。今ではやはり、高校受験のことについて、いろいろ話をします。

司会 高校受験という話が出ましたが、みなさんはどう思いますか。

やはり心配です。

町司 心配というのは入れるか、入れないかということですか。それとも、入ってからのはたして、やっていけるかということですか。

町司 やはり、どちらも心配です。

黒滝 入れるか、入れないかということより、自分で精一杯やったらそれでいいと思います。

矢田 黒滝さんと同じく精一杯やり、入ったにせよ、入らなかつたにせよ、いずれにしても、あとで後悔しないように努力したら、そのあとは、自分自身としても、くいがないと思います。

金田 一、二年のクラスのふんいきに比べると、教室内も変わってきて、休み時間なども、机に向かって勉強する人も、かなり多くなつて、高校受験が目前にきたなあと感じずにはいられません。

竹内 高校受験ということが出ましたが、学校というのは、勉強する場所と考えられています。それがいいわけではないのです。友だちを作る場所でもあるわけです。だから、中学校でできた友だちは、おそらく一生の友だちになると思うんですね。こういう時に、友だちができるか、できないかということ、その人間の一生を、決めることにも、なりかねないわけですね。そういう意味で、友だちと、人生

のことについて語ったことは、何事にもかえがたい利益だ
と思います。

◇ 今の社会

司会 では、話題を、今の社会についてのことにうつしたいと思
います。〃黒い霧〃と、マスコミによくいわれますが、み
なさんは、中学生なりに、今の社会状況を、どう思ってい
ますか。

矢木 何度も当選している人が、悪いことをするようにるので
新しい人がなったらどうでしょう。その方が、若い日本が
、でき上がるような気がします。

保古 僕は、時々新聞を見る程度で、よくわからないのですが、
選挙民も、選挙をしたということだけで、のがれているよ
うに感じます。そのくせ、文句をいっていますが、選挙を
した後にも、自分達の意見を、手紙に書いたりして、どん
どん要求した方がいいと思います。

黒滝 私もよくわかりませんが、立候補する人は、ほんとうに日
本のことを考えて、誠実に選挙民に訴えて、選挙を続けて
ほしいと思います。

矢田 買収までして、当選しようとしている人がいると思いま
す。そういうこととしてまで当選しても、これからの新しい
日本を作るためには、よくないことだと思えます。テレビ
でも言っているように〃黒い霧〃をなくするように、選挙
民も責任を持って投票するように、みんなで協力をして選

挙してもらいたいですね。

司会

僕達も、これから数年後には、選挙権をもらうわけですが
そのためにも勉強をして、よい立候補者を選びたいと思
いますが。先生は、どう思いますか。

竹内

今のみんなの意見を聞いて、たいへん感動したわけですが
良い政治家に出てもらうためには、選挙民がしっかりしな
くては、いけないんですね。

やはり、自分の方にも責任があるという、そういうような
態度を、みんなが持っていれば、きつとりっぱな、選挙も
できるであろうし、良い日本ができていくと思うん
です。

まあ、そういう意味で、みんなも、選挙権を持った時には
良い政治家を選んでください。それが先生の願いですね。

◇ 五稜の先生

司会

僕達も、先生の期待にそうようにしたいと思っています。それ
では最後に、先生や父兄の皆様方への希望を、お願いしま
す。

矢田

本校の先生方は、話もけっこうわかってくれることです
し、気軽に話もでき、りっぱな先生が多いように思われま
した。ですから、これ以上の希望は、べつにありません。
先生方みんな、親しみやすいから、授業も楽しくやれまし
た。

保古

矢木

あまり親しみやすく、友だち同志のようになってしまいま

司会

すが、相手はやはり先生だから、僕達もしつかりした気持ちでやっていきたいです。

今の話ですと、先生と生徒の接触があったように思われますが、先生として、僕達生徒をどう思っていますか。

私も三校ばかり経験していますが、五稜の先生は、みんなの話にもあったように、立派な人が多いように思われるんですね。

竹内

それでみんなも、大変喜んでくれたし、そういう先生におそわったみんなも、大変立派だったと思いますね。

やはり、先生だけ立派で、生徒が立派でないと、うまくいかないんですね。そういう意味で、非常にうれしいと思います。と同時に、先生方の方でも、もっと努力して、よい教育をしていかなければいけないと思います。

それから、あまり親しみやすくて、はじめがないような感じもあるという意見もありましたが、先生方も十分注意しなくてはいけないと思いますね。

やはり親しい中にも礼儀ありという、ことわざもある通り教えられる方と、教える方の間には、礼儀が大事になってくると思います。

司会

今日は、生徒会、五稜の編集にあたって、二度目の座談会を開きましたが、司会がふななもので、上手にいきませんでしたが、ここまで進行させてきました。これも、みなさんの協力によるものです。

今日はどうもありがとうございました。

先人のことば

よいことばを他人の口から拾おうとしないで、こぼれおちさせてしまう者は不幸な人間である。

— レナード —

涙とともにパンを食べたものでなければ、人生の味はわからない。

— ゲーテ —

私の前にいつも輝いていて、わたしをよろこび満たしてくれるものは、善と美と信である。

— アインシュタイン —

みどり学園卒業生名簿

正田 和子 松前郡松前町字原口

小野 俊子 函館市八幡町六一—三

田口 紀子 亀田郡亀田町赤川通二一〇

北島 鈴子 上磯郡木古内町字新通

伊藤 修 亀田郡戸井村字浜町三〇二

能戸 彰 函館市大森町八一十八

平田 寿雄 〃 五稜郭町五四(くるみ学園)

四十一年度受賞者一覧

一、文化関係

▼火災ボスター展

(入賞)

佐々木 敏子

▼理科作品展

(中学校理科研究会会長賞)

藤井 寿夫

(東ロータリー賞)

滝沢 麗子

(入賞)

中島 洋見

"

森山 宏幸

"

浜野 則子

"

坂野 道子

"

川崎 美弥子

"

山田 律

"

高江 加寿子

"

高江 敏夫

"

桜庭 昭夫

"

山田 まち子

▼全道発明工夫展

(入賞)

中島 洋見

二、体育関係

▼中体連陸上競技大会

男

一〇〇M

一位

二〇〇M

一位

二〇〇M

一位

"

一位

八〇H

一位

"

一位

八〇〇R

一位

"

一位

"

一位

"

一位

J四〇〇R

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

"

一位

吉田 由美 永井 睦子 片野 睦子 矢口 恵美子 佐藤 栄子 吉田 由美 小林 りつ子 吉田 由美 工藤 起幸 長島 和次郎 松葉 博光 佐藤 弘俊 大友 貞衛 森中 浩美 清水 正彦 武内 勝貞 大友 俊也 中村 徹 松本 徹 清水 正彦 清水 正彦

▼放送陸上競技大会

男

女

〃	〃	〃	J 四〇〇 R	八〇 H	六〇 M	〃	〃	〃	J 四〇〇 R	〃	〃	〃	八〇 R	二〇〇 M	一〇〇 M	三種 競技	走 高 跳	走 巾 跳	〃	〃	〃	J 四〇〇 R
			一位	三位	三位				六位				六位	三位	一位	三位	四位	三位				二位

山田 まち子	堀 とも子	小林 りつ子	石川 真知子	片野 睦子	小林 りつ子	森 衛	長 島 和次郎	松 葉 博 光	佐 藤 弘 俊	大 友 貞	棟 方 勉	田 中 浩 美	清水 正 彦	松 水 徹	清水 正 彦	矢口 恵美子	滝 沢 麗子	小林 りつ子	山田 まち子	堀 とも子	小林 りつ子	石川 真知子
--------	-------	--------	--------	-------	--------	-----	---------	---------	---------	-------	-------	---------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	--------

▼中体連卓球競技大会

男

女

男

▼中体連体操競技大会

走高跳	個人	団体	床運動	〃	〃	鉄棒	〃	鉄棒	〃	跳箱	〃	〃	〃	個人総合	〃	〃	学校総合	床運動	鉄棒	〃	個人総合	学校総合
五位	二位	二位	一位	二位	四位	四位	四位	四位	五位	一位	四位	六位	一位	三位	五位	一位	三位	一位	三位	四位	六位	二位

滝沢 麗子	葛西 義夫	斎藤 晃	児玉 昭	栗山 忠	斎藤 晃	栗山 忠	児玉 昭	斎藤 晃	栗山 忠	斎藤 晃	児玉 昭	佐藤 栄子	佐藤 栄子	布 ちよ子	佐藤 栄子	太田 和子
-------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	-------

一人一言

卒業生住所録

3 年 A 組

あしたはあしたの風が吹く

市内宮前町

あすがあるさ、なんとかなるさ、希望をもて

市内田家町

受験ばかりが人生でない、走ってころんでさまゝみる

市内白鳥町

努力あるのみ

市内白鳥町

ビー／＼／ウヒ／＼ドヒヤ／＼ア／満足以上

亀田郡亀田町本通

誇り

市内八幡町

陽がしずむ、陽がのぼる

亀田郡亀田町神山

自己のごとく隣人を愛せよ

市内田家町

進め／＼勇氣、友情、努力で／＼

市内五稜郭町

常がだいじ

市内田家町

苦しくてもくじけるな

市内五稜郭町

根性／＼

市内五稜郭町

フェアプレー！

市内宮前町

泣く子もだまる五稜の女、女性諸君いろいろアラ／＼ナ??

市内田家町

友よ、健康であれ

市内宮前町

なんでも誠実、やれば道はひらける

市内五稜郭町

精神一到

市内八幡町

明日を信じよう

市内五稜郭町

何ごとにも努力／＼

市内白鳥町

あきらめる前にもう一度／＼

市内五稜郭町

今思う我のあゆみし道すじの長く楽しき思ひなつかし

市内八幡町

いつまでもいつまでも、遅刻をしないように

畑沢正美

福井栄次

藤田政弘

藤本徳行

保古晴男

細井博

三上幸市

南隆雄

見張公俊

百沢哲之

本谷薫

山形峰弘

吉田元昭

自分にきびしく他人にやさしく

市内田家町

一步一步着実に前進しよう

市内五稜郭町

ファイトをもってつばしれ／

市内田家町

今日の努力は明日への希望

市内宮前町

力強く生きよう

市内柳町

希望をもって一直線に進もう

市内柳町

一直線に行こう

市内宮前町

広い心と正しい考えを持って幸福を築こう

市内白鳥町

マイペースで行こう

亀田郡亀田町本通

苦しみはたえぬこう、努力して／

市内柳町

清く明るく素直に

市内五稜郭町

未来へ希望をもって前進／

市内宮前町

苦しみに耐えた者にこそ幸福が待っている
市内白鳥町

会田典子

朝風嘉代子

有本恵美子

上村美代子

大平昌子

金曾栄子

川崎潤子

河村真智子

小柳和子

佐藤真里子

清水優子

高橋あき

田原久美子

希望／努力／忍耐／そして友情を持って前進しよう

市内田家町

古きをたずねて新しきを知る

市内五稜郭町

人世、まあいろいろあらあな／

市内田家町

前進

市内白鳥町

人間は考えるあしである。誠実・協調・真理探求／

市内八幡町

後輩の諸君、中学生生活を有意義に過ごして下さい

市内田家町

3年B組

はりきって行こう

市内五稜郭町

勉強にスポーツに一生懸命ガンバツテチャョーダイ

市内松風町

自分の思ったことは最後までやりぬこう

市内中島町

協調

市内五稜郭町

一步後退、二歩前進

市内田家町

希望をもって進もう

市内白鳥町

野々宮和子

野呂昌代

平田恵美子

町光恵

本谷節子

矢口恵美子

太田正美

岡村和幸

小川隆司

小田野隆夫

金村正明

加茂栄二

遠い道を一步一步勇気をもって進もう

市内五稜郭町

空のように青く、海のように広い心をもとう

市内田家町

高校、就職、何にしても一生懸命やれ

市内白鳥町

勇気をもって一生懸命進もう

市内五稜郭町

「誠実、協調、真理探求」

市内五稜郭町

「躍動」

市内柳町

希望へただ前進のみ

市内田家町

GIVE AND TAKE

市内五稜郭町

別れても友情をいつまでも

市内宮前町

努力

市内五稜郭町

前進

亀田郡亀田町字中道

かぎりない前進

市内五稜郭町

希望に向かってまっしぐらに進もう！

市内五稜郭町

日下部 瑞穂

国立 亨治

熊谷 久夫

小林 修一

近藤 和行

佐々木 司郎

佐々木 敏彦

田中 浩美

飛内 敏行

中村 昭夫

古屋敷 透

松本 曉雄

皆川 克己

中学校生活とは橋のようなものだ、短いが重要だ

市内谷地頭町

団 結

市内五稜郭町

賢者は感情を支配し、愚者は感情に支配される

市内柳町

努力、努力、努力

市内五稜郭町

人には幸福を、自分には正しさを

市内五稜郭町

何事も努力、努力、努力でつらぬこう

市内八幡町

自分に命令しないものはいつまでもしもべにとどまるであろう

市内白鳥町

苦難を忘れてはならない苦痛のない、人生に進歩はない

市内五稜郭町

愛することを忘れるな！

市内五稜郭町

若者よ、生きよ！

市内五稜郭町

力を尽くしてせまき門より入れ……

市内田家町

この言葉はきつとあなたに役立つと思います

市内田家町

いつでも元気で

市内田家町

森山 宏幸

山田 博

葛原 一洋

阿部 朋子

小松 千恵子

柴田 和子

鈴木 智子

高江 加寿子

高橋 郁子

谷岡 百合子

橋本 まり子

原田 弘子

希望に向かって前進しよう

市内八幡町

明日の前進に希望をもとう

亀田郡亀田町中道

明日に向かって前進しよう

市内柳町

進め／明日がある

市内五稜郭町

自信をもって一步一步前進して行こう

市内柳町

進もう、明日の希望へ

市内五稜郭町

明日に向かって進もう

市内田家町

過ぎたるはなお及ばざるがごとし

亀田郡亀田町字富岡

二度とこない青春をたのしもう

亀田郡亀田町字港

何事もくじけずやりとおせ／

市内白鳥町

青春を楽しもう

亀田郡亀田町字港

後輩よ、何ことも前進

市内白鳥町

広瀬 久美子

広田 京子

藤井 達江

本間 由美子

真狩 淑子

巻口 栄子

水野 修子

向井 博美

矢田 啓子

大和 美智子

柳谷 久美子

山村 玲子

3 年 C 組

千里の道も一歩から

市内宮前町

まあいろいろあらあな

市内五稜郭町

ベトナム戦争反対／

市内田家町

なんとなく、なんとなく、卒業しちゃった

市内五稜郭町

目標突破

市内田家町

「努力」このことばを胸にしめ三年間を学習しよう／

市内田家町

目標に向かって前進せよ

市内田家町

この道は長いけど歩きながら行こう

市内五稜郭町

正しい道を力強く進もう

市内田家町

人生は長い、くよくよするな

亀田郡亀田町字本町

明日を信じよう

市内八幡町

未知への挑戦を恐れるな／

市内柳町

秋田 孝

五十嵐 祥隆

加賀 晃一

加藤 貞児

岸田 正

木野下 伸之

小泉 久直

佐々木 由明

佐藤 庸一

菅原 諭

高橋 英昭

竹ヶ原 晴司

美しき若葉

市内田家町

勉強よりスポーツを

市内田家町

愛なき人生は死に等しい

市内田家町

朝起きは三文の徳

市内田家町

なにもいうことがない

市内上湯川

今日の友、三月八・九日の敵

市内八幡町

夢多き青春の日々に人間を愛する喜びを知れ

市内八幡町

自分が自分だということをわすれるな、

そして自分でしたことに自信を持て

市内白鳥町

一生の想い出々中学時代々

市内五稜郭町

『さらば義務教育の九年間』

市内五稜郭町

頑張ろう、未来の希望へ

市内五稜郭町

在学学生諸君よ『前進あるのみ』

市内五稜郭町

橋 正衛

塚 田 俊

寺 内 章

寺 下 誠

平 野 繁

福 島 昇

松 本 徹

山 崎 武士

吉 川 和 幸

吉 村 正 樹

青 木 千 鶴

池 田 たかね

人生には希望、行動には勇氣

市内柳町

明日への希望

市内白鳥町

苦しい事があつたら又三年C組を思い出してガンバロウ

市内五稜郭町

希望を持ち努力をし、何事にもくじけず頑張ろう

市内白鳥町

飛び出せ大きなつばさをばたいて

市内八幡町

落ちたなら来年受けよ、あせらずに

市内白鳥町

苦しい事もあるだろう。悲しい事もあるだろう。だけど私達はくじけない。泣くのはいやだ。笑っちゃおう進め

市内五稜郭町

勇氣を持って前進

市内五稜郭町

勇氣あるものよ、ガンバレ

市内五稜郭町

思考なくして前進なし

市内柳町

人間は孤独だ

市内田家町

私は逃げる。執着のような教師達の追跡をかわしながら、

現在を、今夜を、そして明日を遊ぶために。

市内田家町

金 曾 淳 子

菊 地 由 枝 子

木 田 まゆみ

國 分 和 子

佐々木 敏 子

清 水 恵 美 子

白 沢 真 澄

菅 野 ふ み よ

高 橋 美 佐 子

田 巻 恵 子

鳥 山 喜 美 子

馬 場 恵 子

何事にも努力しよう

市内五稜郭町

未来に向かって一歩一歩前進しよう

市内五稜郭町

大望

市内白鳥町

一日、一日を努力しよう

市内五稜郭町

心に太陽を、口びるに歌を、

市内五稜郭町

3 年 D 組

君と会うその日まで僕は行く……目標に向かって、
君へ、

市内中島町

進路の選択は慎重に、

市内田家町

勇気、

市内八幡町

何事も希望を持って生きよう

市内田家町

がんばれ、

亀田郡亀田町本通

一日一日を勝利と前進

市内田家町

張田 雪子

藤田 早苗

矢口 ふみ恵

山形 まき子

吉田 由美

石井 義久

石川 千春

泉山 哲義

岩佐 茂夫

大竹 義人

大塚 和朗

若さだ、何事も恐れるな、

市内五稜郭町

一つの事に情熱を感じたら、最後までやりぬこう、

市内白鳥町

初恋を続行しよう、

市内白鳥町

正々堂々と未来に向かって前進

市内五稜郭町

健康で、

亀田郡亀田町字中道

フアイト、フアイトで燃やせよ、

市内田家町

自分を信じろ、

市内柏木町

人生とは長きもの、

壮大な夢を持ち、どんな事にもくじけず前進して行こう

市内五稜郭町

希望、努力、前進、

市内花園町

勇気を持って前進あるのみ

市内五稜郭町

まっすぐ進め、

市内五稜郭町

常に先進あるのみ

亀田郡亀田町字中道

大場 義和

金田 功

加茂 毅

工藤 敬吾

渋川 博康

進藤 博之

相馬 康一

竹下 昇

田辺 英樹

田原 敏彦

富田 泰弘

早坂 和治

我が青春、母校とともに

市内白鳥町

自分に対して責任をもとう

亀田郡亀田町富岡

前進あるのみ

市内白鳥町

進め、進め、どこまでも

市内白鳥町

大きな希望を持ってまっすぐ前進

市内田家町

希望を持って前進しよう

市内宮前町

何事も努力

亀田郡亀田町字中道

「不朽」という堅い岩に確実に礎を降ろそう

市内港町鉄道敷地

何事にも希望をもて

市内白鳥町

広い考え、豊かな心

市内田家町

青空のような澄みきった心でがんばりましょう

市内五稜郭町

つねにのびる人は過去を悲しまない

市内五稜郭町

勇気は生きのびる、勇気はけっしてすたれることはない

市内田家町

樋口隆史

松本浩

宮原正剛

吉川雅史

井川久美子

今井和子

上坂美知代

黒滝光子

小堀ひめ子

佐藤朱実

佐藤トモ子

庄司幸代

鈴木まき子

へこたれるな、君はまだ若いのだ

市内宮前町

いまだ、いまを生かせ

市内八幡町

楽しかった数々のわが母校の思い出

市内五稜郭町

私は卒のようにおとなしく、ししのように強くなりたい

市内五稜郭町

物事は心底から考えるものです。何事も慎重に

市内松蔭町

口から出る物が人を汚す事なく、滅びる者を救う人間になりたい

市内柳町

強く明るく正しい道を

市内白鳥町

卒業をしても友達でいてほしい、元気で、さようなら

市内大縄町

独立独歩

市内白鳥町

何事にも努力

市内五稜郭町

健康と努力は幸福のカギ

市内五稜郭町

3年E組

よく遊び、よく遊べ

市内田家町

高橋まり子

高谷きよい

谷藤泰子

永井和子

新井田千鶴子

布施ちよ子

宮川静代

村田幸恵

山本康子

吉田美知子

吉村由美子

江村春樹

およびでないことはやめよう

市内五稜郭町

努力

市内八幡町

くちびるに歌を心に太陽を、大きな希望を持って前進

市内粟川町

未来に希望を持て

市内田家町

直線ハ曲線

市内田家町

在校生諸君、おおいに遊べ

市内田家町

目標に向かってただ前進

市内五稜郭町

五稜中の諸君、よく遊べ(又、勉強せ)

市内田家町

人生、一人ぼっち

市内田家町

努力

市内五稜郭町

人間よ、半直であれ

市内柳町

正座精神をいつまでも、わすれないで、ちょうだい

市内五稜郭町

努力、努力、努力、市内五稜郭町

太畑 治

葛西 義夫

菊谷 公平

門脇 和夫

草刈 英俊

桑原 伸幸

工藤 敏明

小島 諱樹

関子 均

武内 勝

棚池 裕治

中村 俊也

中村 秀光

荒海をこえ、陸に向かって進め

市内田家町

国を愛する心を持て

亀田郡亀田町本通

我々の手で試験のない世にしよう

市内田家町

自ら高ぶる者は下げられ、へり下る者は上げられるであろう

市内田家町

進んで負えば、重荷重からず

市内五稜郭町

努力

市内田家町

空に星があるように

市内宮前町

.....?

市内田家町

五稜中学校の諸君、勉強、スポーツに頑張って行こう

市内五稜郭町

最後まで努力がかんじんだ、何事も努力、努力

市内五稜郭町

太陽に向かって希望を持て

市内五稜郭町

真理探求

市内五稜郭町

永井 健

長谷川 博

原田 正樹

藤井 寿夫

本間 康雄

藤江 一己

村上 幸彦

山本 敏信

吉村 純一

竹園 政昭

荒谷 美津子

青木 智子

池田 美智子

明日を待つて頑張ろう

市内宮前町

今日できることは、明日に延ばすなノ

市内五稜郭町

我が道を行け

市内五稜郭町

未知の國へ希望を持って前進ノ

市内白鳥町

人間はある意味では常に逃亡者だ……逃げてはいけないノ

亀田郡亀田町本通

常に正しく真理を語ろうノ

亀田郡亀田町字中道

友愛協調

市内田家町

成功とは、結果で計るのではなく、それに費やした集積である

市内田家町

自主独立

市内田家町

苦しみ、悲しみ、みんな捨てない、だから行くのだ、希望に向かって

市内田家町

希望に向かって進もう

市内五稜郭町

一日、一日を楽しく過ごそう

市内宮前町

努力こそ最高の前進ノ

市内白鳥町

大隅 英子

桶谷 美津子

神門 由紀子

川崎 美弥子

川上 由紀子

河合 香代子

葛西 千代子

坂野 道子

田堰 安子

武田 典子

高橋 理津子

新城 美名

浜野 則子

誠実協調

亀田郡亀田町中道

学びて思わされば則ちくらく、思いて学ばされば則ち殆し

市内田家町

我々は、正しい目的と正しい手段を持って前進しよう

市内田家町

市内五稜郭町

3 年 F 組

これが青春だ

市内五稜郭町

一に努力、二に努力、三、四がなくて五に努力

市内白鳥町

後の雁が先になる

市内五稜郭町

中学時代によく遊べ

市内田家町

人生の道は、いろいろあらあな……しっかりやりたまえ

市内五稜郭町

ガンパローノ

市内田家町

よく遊べノ

市内五稜郭町

ローマは一日にして成らず

市内八幡町

堀江 雅子

水間 幸子

山田 律

山田 郁子

荒井 信二

大友 貞

及川 敏行

川村 進

武部 敏隆

加賀 信晴

児玉 昭夫

桜井 聡

諸君、頑張って行こう

市内八幡町

みんな明るく、頑張ってチョウダイノ

市内田家町

希望を持って努力せよノ

市内田家町

「ガンバツテ」チョウダイノ

市内五稜郭町

粉骨砕身

市内田家町

人生はいろいろあらあね、

自分の道をすぎの樹のように真直ぐに進もう

市内五稜郭町

能ある鷹は爪をかくす

市内湯の川町一丁目

大器晩成

市内柳町

待てば海路の日和

市内田家町

毎日の行動を責任を持って行なえノ

市内宮前町

攻守撃退

市内白鳥町

突進・突進・突進

市内田家町

懸友征伐

市内田家町

城地隆司

柴田淳一

館山茂樹

津田博昭

寺島俊郎

中島洋見

原田照雄

浜地顯司

平川淳一

平山泰二

村上裕明

山本知利

山本正一

この世の中に負けるなノ

市内五稜郭町

常に前進あるのみ

市内五稜郭町

「博愛精神」

市内田家町

見えをはず正しく清らかに

市内白鳥町

希望を持って努力することが、
目的地に到着するよりずっとすばらしい

市内五稜郭町

「精神一何事かならざらん」強い意志を持ってノ

市内田家町

「健康第一」

亀田郡亀田町赤川通り

「勇往邁進」

市内田家町

花には水を、友には友情をノ

市内田家町

「過猶不及」

市内五稜郭町

「急がば廻れ」

市内宮前町

我が道を前進せよノ

市内五稜郭町

何事にも勇気と努力ノ

亀田郡亀田町字富岡

渡辺祝安

福原昭一

穴沢敦子

上野真由美

大釜拓子

木村京子

小番和子

境千賀子

佐々木恭子

下野和子

下田孝子

須佐真弓

田畑幸子

「努力」人生は常に努力である、

市内五稜郭町

くり返しは、あらゆる教えの母

市内港町国鉄敷地

「克己」

市内八幡町

少年老いやすく、学成りがたし

市内八幡町

「学而不思則罔思而不学則殆」

市内大川町

中学校生活を意義あるものに

市内五稜郭町

真実のこの友愛こそ、私を永遠に導く北極星

市内田家町

あすへの希望を持って進め

市内白鳥町

「時は金なり」

市内白鳥町

3 年 G 組

「学問は長き忍耐」強い意志を持って我等は生きよう

市内五稜郭町

夢もきぼうもないざんす

市内五稜郭町

努力によって栄光をかちとろう、

市内宮前町

勇気と希望を持ち前進せよ、

市内八幡町

谷内 光子

中野 和子

仲川 靖子

丹羽 美知子

藤岡 ひろみ

藤谷 福代

松森 睦子

山本 雪子

横川 久美子

秋山 要一

赤石 健一

岩間 日出夫

大沢 照雄

戦え、そして心に美を持って、

市内田家町

勇気あるもの

市内白鳥町

この毎日二度とかわってこない。時間をむだにするな。

市内白鳥町

一に勉強、二に勉強、三に遊んで進学バー。ちょっと一言多すぎた

市内新川町

しあわせだなあ、

市内白鳥町

ほほえみを忘れるな、いつまでも、いつまでもね

市内五稜郭町

ああ、見通し暗い

市内五稜郭町

ガンバロウ、フアイト、

市内五稜郭町

一に計画、二に実行

市内五稜郭町

前進、前進、ただ前進するのみ、

市内田家町

よきライバルは、よき友である

市内八幡町

自分の敵は自分の中にある

市内白鳥町

「意志ある所に道がある」デッカタイキヨウ

市内田家町

広大無限

大友 英一

門口 宏幸

粥川 敦

木村 達夫

木村 光雄

小林 欣二

酒井 秀康

佐藤 龍彦

沢口 功

民野 裕幸

南部 雅史

野呂 豊

島山 健一

花田 鎮男

その一言が多かった

市内五稜郭町

勝利の道は険しい

市内田家町

自分の友を偲じてガンバロウノ

市内五稜郭町

いつまでも、いつまでも

市内田家町

人生ノバクチだぜ

亀田郡亀田町字富岡

がんばれノまだ息があるじゃないか

市内五稜郭町

今日出来る事は明日に延ばすな

亀田郡亀田町字富岡

充実した三年間、未来を見いだそう

市内田家町

長いようで短かった三年間

市内田家町

努力を忘れず我が道を進めノ

市内五稜郭町

ソクラテスの名言のように『汝自身を知れ』

亀田郡亀田町字本通

朗らかであれ、完全であれ、夢を愛し、どんなことにも感謝せよノ

市内田家町

千里の道も一歩から

市内白鳥町

日影館 隆彦

日野口 貢

本間 昇

村上 雅美

矢木 洋一

網野 元子

伊丸岡 愛子

岩橋 久利江

丑ヶ谷 則子

内山 美恵子

太田 和子

岡本 祥子

片野 睦子

希望を持って前進ノ

市内五稜郭町

希望を胸に強く美しく生きていこう

市内白鳥町

失意の時こそ勇気をノ

市内柳町

何事にもくじけず常に前進ノ

市内田家町

人事をつくして天命を待つ

市内五稜郭町

明日の幸福のために今日努力しよう

市内白鳥町

歩き続けよう。われらの目標をめざして

市内五稜郭町

いつまでも、いつまでも『まアいろいろあらあなアノ』

市内白鳥町

ベケ子ちゃんもボケ男君も五稜をたいせつにノ

市内五稜郭町

未来の目標を努力の武器でぶち破れノ

市内田家町

戦いにたえぬことは苦しい。だが、そのあとにくる勝利は楽しい

市内五稜郭町

正しい自分の道を見つけ、まっすぐ進もうノ

市内田家町

葛城 とも子

笹森 かおる

佐藤 栄子

鳥村 孝子

庄内 栄子

千葉 寿恵子

釣谷 妙子

中村 京子

新田 美和子

林 紀久子

原田 和代

三ツ石 典子

職員構成一覽

氏名	職名	担当教科	住 所	電 話
藤川 光夫	校長		函館市八幡町	51
太田 秀雄	教頭	社会	亀田郡亀田町鍛冶	
阿部 光房	教諭	保体	函館市田家町	
岡本 守			宇賀浦町	
荻原 はる			柏木町	51
勝野 一生		みどり	柏木町	
門脇 初代		英語	亀田郡亀田町富岡	
金田 豊秀		国語	函館市田家町	
綿山 祥子		養護	人見町	
窪田 暉子		国語	亀田郡亀田町本町	
桑川 俊郎		理科	函館市日吉町	51
桜井 恭子		音楽	千代ヶ岱町	51
斎藤 正宏		数学		
坂牧 達夫		理科	深堀町	
主藤 節子		数学	杉並町	
蘇馬 辰郎		英語	谷地頭町	23

滝村 浩平	教諭	技術	函館市柳町	51
竹内巖太郎		国語	本町	51
永井 太郎		音楽	松蔭町	51
永谷 嘉一		英語	日吉町	
成田 恭子		家庭	海津町	
西谷富士雄		社会	梁川町	52
野々村正晴		英語	松蔭町	
平沼 靖雄		国語	五稜郭町	
広沢 博正		数学	時任町	
福寿東太郎			松川町	51
松井 喜一		技術	田家町	
三上 力也		社会	八幡町	
三十刈智一			中島町	
望月 年春		みどり	日吉町	
安井 孝		美術	川家町	
米田 忠夫		理科	千代ヶ岱町	51
渡辺 宏平		みどり	時任町	
武田 政雄		事務	柏木町	
樺田 美代			田家町	
藪下 寛				

編集後記



五稜に来てから四年、毎年雑誌作りをやらされている。何でも作るといふことは楽しいことだが、一面苦勞もともなり。それに、毎年やっていると、だんだん感激が薄くなってくるし、新鮮なアイデアも浮かんできにくい。誰かに交替してやってもらいたいと思うこともしばしばである。

それでも生徒会の諸君が、実によく働いてくれるので、ずい分助かる雑誌「五稜」には八五五名の一年のくらしが刻まれている。読み捨てにしないで本箱の片隅に、長くその座を占めさせてほしい。
(竹内)

【五 稜】第六号

昭和四十二年三月九日 印刷
昭和四十二年三月十日 発行

編集 函館市立五稜中学校

電話 51—三四五八

発行 生徒会

印刷 K K 三塚印刷所

電話(代) 51—七〇三三